

平成22年度

事業報告書

平成22年4月1日～平成23年3月31日



公益財団法人 日本科学技術振興財団

平成 22 年度事業報告書

平成 22 年度(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)は、年度当初の事業計画に基づき所期の目標を達し、成果をあげることができました。

これはひとえに、国、産業界、学会ならびに J K A、日本財団、日本宝くじ協会など関係各位のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

本年度実施しました事業につきましてご報告申し上げます。

目 次

総合活動

I. 役員会等	1
---------------	---

事業活動

I. 科学技術館の運営事業	6
II. 他館の運営事業	22
III. 他館に対する活動支援事業	38
IV. 科学技術系人材の育成事業	40
V. 科学技術の普及啓発事業	46
VI. 科学技術の振興に関する調査研究事業	48
VII. 科学技術の研究開発とその促進事業	51
VIII. 情報システムの受託開発と運用事業	52
IX. 科学技術館施設の利用促進事業	54

平成22年度事業報告書

【 総合活動 】

I. 役員会等

1. 会議の開催

(1)理事会の開催

①第216回 平成22年6月16日

- ・平成21年度事業報告(案)
- ・平成21年度決算報告(案)
- ・会長、副会長互選の件
- ・常任理事委嘱承認の件
- ・評議員委嘱承認の件
- ・顧問委嘱承認の件
- ・専務理事委嘱承認の件
- ・常務理事委嘱承認の件
- ・常勤役員の有給承認の件
- ・平成22年度補助事業実施に関する件
- ・平成22年度助成事業実施に関する件
- ・特定費用準備資金等の設定と取扱について

②第217回 平成22年9月17日

- ・平成22年度第1・四半期事業実施報告

③第218回 平成22年12月17日

- ・評議員委嘱承認の件
- ・平成22年度第2・四半期事業実施報告

④第219回 平成23年3月17日

- ・平成23年度事業計画(案)
- ・平成23年度収支予算(案)
- ・「公益財団法人日本科学技術振興財団役員及び評議員の報酬及び費用に関する規則」の一部改定について
- ・評議員委嘱承認の件
- ・平成22年度第3・四半期事業実施報告
- ・財団の重要課題と対策

(2) 定例評議員会の開催

①第70回 平成22年6月16日

- ・平成21年度事業報告(案)
- ・平成21年度決算報告(案)
- ・理事選任の件
- ・監事選任の件
- ・平成22年度補助事業実施に関する件
- ・平成22年度助成事業実施に関する件
- ・特定費用準備資金等の設定と取扱について

④第71回 平成23年3月17日

- ・平成23年度事業計画(案)
- ・平成23年度収支予算(案)
- ・「公益財団法人日本科学技術振興財団役員及び評議員の報酬及び費用に関する規則」の一部改定について
- ・平成22年度第3・四半期事業実施報告
- ・財団の重要課題と対策

(3) 会長・副会長会議の開催

第31回 平成22年11月26日

(4) 三財団連絡会議の開催

平成22年5月27日

(財)大阪科学技術センター、(財)中部科学技術センター、(財)日本科学技術振興財団の近況報告と、今後の連携活動についての会議を開催しました。

2. 対外機関との連携活動

(1) 賛助員活動

財政基盤の安定を図るため、賛助員の拡大に努めました。

(2) 各種外部企業・団体との連携活動

賛助員をはじめ、企業・団体との各種連携活動強化に努めました。

(3) 賛助企業等との連携活動について

(活動報告)

- ・科学技術館見学会の開催(共催：(財)バイオインダストリー協会) 平成22年5月20日
- ・(株)旺文社 第53回全国学芸科学コンクール作品展示会 平成22年3月24日～4月6日
- ・富士重工業(株) スバル矢島工場見学と電気自動車試乗会 平成22年4月2日
- ・中外製薬(株) 夏休みバイオ実験教室 平成22年8月7日～8日

・三菱商事(株)	米村でんじろうサイエンスショー	平成22年8月13日
・パイオニア(株)	フローティングビジョン体験教室	平成22年9月11日
・日本精工(株)	見えない摩擦を見てみよう	平成22年9月23日
・キヤノン(株)	レンズ工作教室	平成22年10月16日
・三菱電機(株)	わくわく科学ショー(中津川市)	平成22年10月30日
・サイエンスカクテル	糸のテクノロジー	平成22年11月14日
・三井化学(株)	ファミリーデー(汐留)	平成22年11月21日
・富士重工業(株)	スバル矢島工場見学	平成22年11月23日
・住友商事(株)	バリアフリー上映会	平成22年11月23日
・サイエンスカクテル	糸のテクノロジー	平成22年12月12日
・JFEスチール(株)	東日本製鉄所見学会	平成22年12月22日
・サイエンス・スタジオ・マリー	キュリー夫人の理科教室	平成23年1月15日
		平成23年2月12日

3. 企画広報活動

(1)各部との事業連携・人材育成

当財団職員のレベルアップを図るべく勉強会を開催しました。

開催日：6月23日(水)

講義内容：

- ・「小学校で理科を教える教員に対する調査 ～一次分析から見えること～」
- ・「科学技術館の展示は効果があるのか？ ～展示の効果調査分析例～」

開催日：6月30日(水)

講義内容：

- ・「平成21年度『青少年のための科学の祭典』来場者の科学技術に対する意識と効果について ～全国大会、各地域における大会の比較・検証～」
- ・「広報ツールとしてのtwitter(ツイッター)入門」

(2)財団広報誌「JSF Today」の発行

◇116号(平成22年4月)特集

- ・「科学技術館を評価する ―平成20年度来館者調査―」

◇117号(平成22年7月)特集

- ・「科学技術館へいらっしやい」

◇118号(平成22年10月)特集

- ・夏休み特別展「いきものから学ぶロボット展」開催報告

◇119号(平成23年1月)特集

・日本科学技術振興財団 設立 50 周年

(3) 「科学技術館メールマガジン」パソコン版、携帯版の制作・発行

① 「科学技術館メールマガジン」の発行

- ・277号(4月7日)～323号(3月30日)発行
- ・会員数 3月30日現在 9,478人

② 「科学技術館ケータイメルマガ」の発行

- ・6号(4月7日)～52号(3月30日)発行
- ・会員数 3月30日現在 232人

③ twitterによる情報発信の試行を開始

- ・財団・科学技術館の情報発信の一環として6月9日(水)より、twitterによる情報発信の試行を開始しました。

アカウント JSF_SMT (http://twitter.com/JSF_SMT)

フォロー数 3月30日現在 398人

(4) 「散歩のおとも」販売(平成22年度)

草木 473冊

動物 195冊

合計 668冊

(5) 財団新要覧の作成

公益法人改革にともない、新規要覧の作成を開始しました。

(6) 「青少年のための科学の祭典」に対する取材・放映

「青少年のための科学の祭典」について、取材・放映に対応し以下のメディアで紹介されました。

- ・時事通信社「内外教育」7月2日(新聞)
- ・NHK「ニュース」7月31日 20:45～(TV放映)
- ・JST「ScienceWindow 秋号 特集ものづくりの力」(雑誌)

(7) 「青少年のための科学の祭典」動画撮影及びDVD化の実施

振興事業部と連携し全国大会の記録とともに、今後各地の大会での活用も考慮して、動画撮影及びDVD化を実施しました。

(8) 「科学技術館来館者評価」「いきものから学ぶロボット展」に対する雑誌取材の対応

「科学技術館来館者評価」「いきものから学ぶロボット展」について、毎日新聞社「サンデー毎日」8月15日(雑誌)にて紹介されました。

(9) 科学技術館動画配信について

振興事業部、科学技術館事業部、情報システム開発部と連携し、7月31日、8月1日に開催された「青少年のための科学の祭典全国大会」、8月7日～22日まで開催された「いきものから学ぶロボット展」のインターネットによる動画配信を行いました。

(10)PC・IT 関連の情報ポータルサイトの記事掲載

情報システム開発部が実施した「iPhone を使った科学館学習支援システム実験」について、PC・IT 関連の情報ポータルサイト「マイコミジャーナル」(11月15日)に記事が掲載されました。

4. 公益法人制度改革

- (1)平成22年6月11日、内閣総理大臣に対して公益財団法人への移行認定申請書を提出しました。
- (2)平成23年3月25日、内閣総理大臣から公益財団法人としての認定書を交付されました。

5. その他

(1)科学技術分野の文部科学大臣表彰

当財団が推薦した(独)理化学研究所主任研究員、戎崎俊一氏の「研究者自身による独創的な普及活動を通じた科学の理解増進」が評価され、文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)の受賞者に決定しました。表彰は平成22年4月13日(火)に京王プラザホテルで行われました。

(2)Pマーク更新

平成22年12月12日付でプライバシーマーク更新が認定されました。有効期間は2年間です。

【 事業活動 】

I. 科学技術館の運営事業

科学技術館の整備拡充を図り、広範な層に科学技術への興味や関心を高めてもらうための展示活動を行いました。その他、サイエンス友の会活動や特別展を開催し、特に次世代を担う青少年に対し科学技術に親しみ、科学する心を培う環境づくりを総合的に展開しました。

また、国・地方自治体、企業等が運営する博物館、科学館等教育文化施設に関し、基本構想の策定から設計、製作、施工管理ならびに設置後における運営等について総合的なコンサルティング業務を実施しました。

1. 科学技術館の常設展示の運営事業

(1) 展示室の運営

① 入館者の安全管理

財団内に設置された CS 委員会と連携して、入館者からの苦情・意見への対応を進め、入館者が安全かつ安心して見学できる環境作りを進めました。

また、3月11日に発生した東日本大震災の際は、スタッフが一丸となって来館者の避難誘導を行い、一人のけが人も出ませんでした。

② 展示室の整備

入館者が展示を最良の状態で見学できるよう、常に展示物の修理・改善を行い、快適な展示環境の整備に努めました。

東日本大震災の発生によって3月12日以降は臨時休館とし、地震で受けた損傷箇所の点検・応急処置を行いました。その後、外部建設コンサルタントの建物検査により安全が確認できたため、3月26日より開館を再開しました。

③ 展示の解説および実演

1) 展示の解説および実演

展示を楽しみながら理解できるよう次の展示室で、実験の先生、インストラクターによる演示、実験を行いました。(イリュージョン、ワークス、オプト、シンラドーム、建設館、NEDO、鉄の丸公園1丁目、ガスクエスト、DENKI FACTORY、アトミックステーション ジオ・ラボ、ワクエコ・モーターランド)

2) 科学ライブショー「ユニバース」

原則として毎週土曜日の午後に、研究者らによる科学ライブショーを上演しました。

また、特別構成として、宇宙航空研究開発機構の小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還したことを受

けての緊急特別番組(6月5・12・19日)、中秋の名月に先立ち月に関する様々な話題を紹介する特別番組(9月18日)、日本人科学者のノーベル化学賞受賞を記念しての緊急講演会(10月16日)、1階催物場を中心に開催された「宙博(ソラハク)2010」の開催に合わせて宇宙に関する様々な話題を紹介する特別番組(10月29～31日)を実施しました。

④パソコン道場運営

コンピュータを活用できる人材を育成するため、科学技術館4階I室「パソコン道場」において各種パソコン講習会の開催、教育ソフトの体験型展示などを行いました。

1)パソコン講習会の開催

- ・先生のためのパソコン教室(40回開催、延べ156名参加)

内容：実践ワード講座、実践エクセル講座、インターネット講座、デジタルカメラ活用講座、ホームページ作成講座、実践パワーポイント講座

対象：幼稚園、小中高等学校の教職員および教育関係者

- ・一般社会人向けパソコン講習会(443回開催、延べ1,199名参加)

内容：はじめてのパソコン(タッチタイピング、マウス操作、キーボード操作、メール入門、ホームページ入門、ワード入門、エクセル入門、USBメモリの使い方、ブログ作成、デジカメ初歩、写真の加工、名刺の作成、案内状の作成)、一日講座(ワード、エクセル、デジタルカメラ活用)、年賀状作成、無料講習会

- ・外部との共催教室：JR東日本ジパング倶楽部(176回開催、延べ1,764名参加)、麴町料飲組合連合会(10回開催、延べ88名参加)

対象：主にパソコンを初めて使う一般社会人

- ・千代田区役所OA研修(8回開催、延べ49名参加) 対象：千代田区役所職員
- ・サイエンス友の会パソコン教室の開催(別項「2.サイエンス友の会の活動」参照)

2)教育ソフトの展示コーナーの運営

家庭や学校で使える教育ソフトを集め、パソコン教室に隣接した体験展示コーナーにおいて公開しました。

3)パソコン道場ニュースの発行

パソコンに関する情報、パソコンQ&A、教育ソフト・講習会の紹介などを掲載し、年5回(7,500部/1回)発行しました。東京都内の区・市役所の生涯学習課窓口、生涯学習情報コーナー等に配布しました。

(2)広報活動

①広報活動

科学技術館の事業PR、特別展・イベントの開催等について、テレビ、新聞、雑誌等に対して記事掲載依頼をするなど積極的に広報活動を展開しました。また、日本自転車普及協会 自転車文化センター(2階サイエンス・ライブラリー)や米村でんじろうサイエンスプロダクション(5階ワークス)の取材等にも協力しました。

主なメディア掲載は次の通りです。

1) 逐次刊行物

- ・『日本経済新聞』5月15日「とことん試します」
- ・『Jour すてきな主婦たち』(双葉社)2010年9月号「突撃! ¥(エン)ジョイ・スポット」
- ・『天文ガイド』(誠文堂新光社)2010年12月号「星空FAN!」
- ・『月刊シナリオ教室』(シナリオ・センター)平成23年2月号「シナリオライターのためのお役立ち情報資料館編」

他 16 件

2) 図書・小冊子

- ・「首都圏 子どもと楽しむ社会科見学おもしろガイド」メイツ出版
- ・「米村でんじろう先生のおもしろ自由研究(仮)」主婦の友社
- ・北野小学校広報誌『北野』夏休み直前号「夏休みおすすめスポット」
- ・Pen別冊「東京ガイドブック」阪急コミュニケーションズ
- ・「東京・関東周辺 家族で遊ぶ600スポット'12年版」成美堂出版

他 36 件

3) テレビ・ラジオ

- ・日本テレビ「所さんの目がテン!」(4月11日)
- ・東放学園専門学校放送芸術科「リサーチI」
- ・J-WAVE「JK Radio Tokyo United」(8月6日)
- ・テレビ朝日「SmaSTATION!!」(11月6日)
- ・放送大学「物質・材料工学と社会(’11)」(2011年10月～予定)

他 34 件

4) インターネット

- ・あとみん(文部科学省) <http://www.atomin.go.jp/>
- ・東京 Slow Style <http://www.tokyoslowstyle.jp/>
- ・Marunouchi.com <http://www.marunouchi.com/>
- ・HYPER <http://www.hyper.pl/> (ポーランド)
- ・街ログ <http://machi-log.jp/>

他 13 件

②入館者誘致活動

1) 個人入館者対策

週末を中心に、個人や家族連れの来館者により楽しんで頂くため、イベント等を多数開催しました(別項「3. 特別展・イベント等の開催」参照)。催しについては館ウェブサイトを中心に積極的な告知に努めました。また、無料開館日を次のとおり設定しました。

- ・4月17日 第51回科学技術週間
- ・7月30日～8月1日 「ウォーターフェア'10 水の展示会」及び
「青少年のための科学の祭典 2010 全国大会」
- ・2月19・20日 「けんせつフェスタ 2011」

入館時にお渡しするリーフレットやガイドブック等を現状に即して改訂すると共に、外国人来館者により活用頂くため、館内展示室や周辺施設について英語・中国語・韓国語で紹介する印刷物の制作を進めました。

「東京メトロ一日乗車券」や「都営まるごときっぷ」をはじめ、近隣公共交通機関の乗車券や会員制度等による入館料の割引を行い館への誘致と宣伝に努めました。また、都内70施設の共通入館チケットブック「東京・ミュージアム ぐるっとパス 2010」に昨年度に引き続き参加しました。

2) 団体入館者対策

学校や旅行会社等にDMを発送し誘致を図ると同時に、平成23年4月から実施する休館日について案内・告知を行いました。

3) 入館者状況

3月11日に発生した東日本大震災の影響により3月12～25日は臨時休館し、26～31日には時間短縮(一部閉室)・入館料割引にて開館を再開しました。

	平成22年度 (開館日数 345 日)		平成21年度 (開館日数 359 日)	
	人数	割合	人数	割合
個人入館者数	370,837 人	60.3%	368,975 人	59.5%
団体入館者数	244,168 人	39.7%	251,653 人	40.5%
合計	615,005 人	100%	620,628 人	100%

(3) 学芸活動

① 博物館学芸員養成活動

学芸員養成課程の大学生を受け入れ、博物館実習を行いました。

8月10～20日の10日間(8月16日は休み)9 大学9名

12月6～16日の10日間(12月10日は休み)4 大学4名

② 体験学習・職場訪問の受け入れ

学校団体からの希望により、体験学習および職場訪問を受け入れました。受け入れた学校団体は35件、181人でした。

③ 科学技術館活動の定性的評価の実施

科学技術館の展示活動の定性的評価として、自動車展示室「ワクエコ・モーターランド」の来室者アンケート調査を実施しました。

実施日：8月27～29日、回答者数：子ども287人・大人267人

④ 学会等発表

日本ミュージアム・マネジメント学会第15回記念大会にて「科学館における教育プログラムの評価手法に関する調査研究」を発表しました(平成21年度渡辺記念会科学技術研究助成事業)。

開催期間：6月5～6日(発表は6日) 開催場所：国立科学博物館

(4)連携・交流事業

①博物館連携活動

日付	連携・交流事業(参加・出席)	開催場所
5/20	科学博物館連絡会	船の科学館
6/10	全国科学博物館協議会	国立科学博物館
7/8・9	東京都博物館協議会常務理事会・理事会・総会 日本博物館協会東京支部委員会・総会	通信総合博物館
7/22	指定都市科学館連絡会議	大阪市立科学館
1/10-21	全国科学博物館協議会 (海外科学系博物館視察研修)	訪問国： ベルギー・フランス・イギリス
2/24・25	全国科学博物館協議会	千葉県立中央博物館

②地域との連携活動

1)学校連携

九段小学校と連携し、小学校理科の単元の授業支援を行いました。

実施日：4月9・14日、7月7・8日、10月20・22日、1月12日、2月2・3日

2)大妻女子大学との連携事業として、JST 地域の学舎推進事業地域活動支援

「千代田自然調査隊 -都市と山間部の環境比較を昆虫や天体観察で比べてみよう-」を実施しました。

実施日：7月18日、8月2～3・9日、11月3日

③企業との連携

1)ボランティア活動の受入れ

今期のボランティア活動の実績は次のとおりです。

・鉄鋼ボランティア

延べ123名の鉄鋼ボランティアの方に鉄鋼展示室の工作教室(土・日・祝)及び出張教室(さいたま市青少年宇宙科学館)の運営補助をしていただきました。

・サイエンスボランティア

平成22年度は、20名の登録(1名新規登録)があり、延べ92名のサイエンスボランティアに、サイエンス友の会の教室の運営補助をしていただきました。

2)イベントの開催

・日本IBM TryScience実験教室の開催(日本アイ・ビー・エム(株)との共催事業)

世界的な子供たちの科学・理科離れの傾向を改善するため、科学技術館で毎月1回日曜日に、日本IBM

ボランティアスタッフによる実験教室を開催しました。合わせて、地方の科学館などでの開催のサポートを行いました。

開催日：4月18日、5月16日、6月13日、7月11日、8月22日、9月19日、10月24日、11月14日、12月12日、1月16日、2月13日

また、「青少年のための科学の祭典 2010 全国大会」(7月30日～8月1日開催)に同社 社会貢献/ボランティア・チームが出展した「トライサイエンス “探査機を宇宙に送ろう ―ロケットはどうやって進むの?―”」にも協力しました。

・(株)栄光 新規実験プログラムの開発

(株) 栄光と共同で新規実験プログラム「3D のひみつ ―立体視のふしぎ―」、「音をあやつろう ―音の変化の規則性を学ぶ―」、「みんなで何を見る? ―投影型顕微鏡づくり―」を開発し、それぞれ 10月・11月・12月に栄光ゼミナールの各地の教室で実施されました。また、それらのプログラムを出張理科実験教室として科学技術館でも開催されました。

④天文・宇宙分野での連携事業

1) 米国 Yerkes 天文台との協力

原則として毎月第2・第4土曜日の科学ライブショー「ユニバース」に、ヤーキス天文台で撮像した天体写真をリアルタイムで送って頂き、天文台スタッフによるインターネット会議で紹介・解説しました。

2) 「宙博 2010」

1階催物場を中心に開催された「宙博(ソラハク)2010」の開催に合わせて、4階B室シンラドームにおいて科学ライブショー「ユニバース」特別番組を上演し、宇宙に関する様々な話題をお届けしました。また、2階C室・4階D室イベントホールでの「宙博 2010」プログラムに協力しました。

3) 外部イベントとの連携

・日本天文学会 全国同時七夕講演会

7月3・10日の科学ライブショー「ユニバース」を特別番組の全国同時七夕講演会として行いました。

・全国オーロラ講演会

12月25日の科学ライブショー「ユニバース」を特別番組の全国オーロラ講演会として行いました。

⑤ワークショップ「大人のための体験プログラム 家電にみるテクノロジーの過去・未来」の実施

平成22年9月26日に国立科学博物館と共同して団塊世代を対象とした「大人のための体験プログラム家電にみるテクノロジーの過去・未来」を国立科学博物館で実施した。10名の方にお集まりいただき、団塊世代向けカリキュラム開発の研究試行を行いました。

⑥ワークショップ「サイエンスコミュニケーションをすすめる科学博物館の利用法」の実施

平成22年10月3日に全国科学博物館振興財団と共同して教員を対象とした「サイエンスコミュニケーションをすすめる科学博物館の利用法」を科学技術館で実施し、教員、博物館関係者約30名の方が集まり、科学系博物館の利用法について検討を行いました。

⑦ICOM 上海大会への参加

中国上海にて11月7日～12日に開催された ICOM 上海大会に参加しました。122ヶ国、3,600人の方が集まり、「Museums for Social Harmony」をメインテーマに、今後の博物館の在り方について活発な議論が展開されました。

⑧ワークショップ「21世紀型科学教育の創造」への参加

東京大学一条ホールで12月18日、19日に開催されたワークショップ「21世紀型科学教育の創造」に参加しました。本ワークショップは、科学系生涯学習施設の職員を中心に、2003年から開催されてきたものです。今回は、次期科学技術基本計画の概要がかたまってきたことから、次期基本計画を踏まえながらサイエンスコミュニケーションの定着に向けてさまざまな議論が展開されました。

⑨「先導的研究者体験プログラム」事業評価・講評

平成21年度から筑波大学で実施されている「先導的研究者体験プログラム」について、平成22年11月30日、平成23年2月11日に研究成果発表会が行われ、社会教育・サイエンスコミュニケーションの立場から事業評価、講評を行いました。

2. サイエンス友の会の活動

小学3年生以上の青少年を主な対象として、科学技術に対する関心を高め、理解を深める機会を提供するため、「サイエンス友の会」を組織し、会員制による各種教室を開催しました。平成22年度は第47期を迎え、会員数は1,942名でした。会員の内訳、行事開催回数、参加者数は次の通りです。

(1) 会員数

(単位：人)

		男	女	合計
会 員	保護者	223	420	643
	被保護者	669	490	1,159
準会員		78	62	140
合 計		970	972	1,942

(2) 行事内容、参加者数

(単位：回／人)

行事名	開催回数	内容	参加人数
工作教室	81	光るメロディごまを作ろう、電子びっくり箱の製作、木遊び道具作り教室、いらいらぼー作り 等	1,316
実験教室	108	お菓子の糖分を測定してカロリーオフ、化学反応の基礎…水溶液、電池のしくみを知ろう、電気の基礎…電気回路 等	1,905
パソコン教室	36	3次元グラフィックを描こう、GIFアニメーションを作ろう、見ないで打とう！タッチタイピング、ワードで作る自分だけの時間割表 等	370

自然観察 教室	26	天体観察教室～水星・金星の観察、自然ふれあいビンゴ、北の丸の自然に親しむ、お月見と月の世界 等	810
施設見学会	13	JAL 機体整備工場と羽田空港ターミナルの見学、スバル矢島工場見学と「ぶつからないクルマ？」試乗会、理化学研究所見学会 等	334
レオナルド・ダ・ヴィンチ教室	27	レオナルド・ダ・ヴィンチ教室 第1期、第2期、第3期	170
特別教室	39	音の不思議を体験しよう！、パターブロックで考えよう、わくわく実験隊～鉄の不思議教室 等	835
合 計	330		5,740

3. 特別展・イベント等の開催

(1) 第53回全国学芸科学コンクール作品展示会

同コンクールの受賞作品のうち、金賞 30 作品、アート分野の銀賞・銅賞 30 作品、中国作品 2 作品を 2 階 G 棟サイエンスギャラリーに展示しました。

会期：3月24日～4月6日

主催：(株) 旺文社

後援：内閣府 / 文部科学省 / 環境省

(2) 地球環境世界児童絵画コンテスト優秀作品展

同コンテスト第10回の受賞作品78点を、2階G棟サイエンスギャラリーに展示しました。

会期：4月8日～5月10日

主催：(財) 日本品質保証機構 / 国際認証機関ネットワーク

後援：ユニセフ

(3) 第51回科学技術週間 ～発見したいな まだ誰も見つけてないこと～ イベント

同週間に合わせて、4月17日を無料開館としました。また、5階FOREST スタッフカウンターにおいて、「一家に1枚 未来をつくるプラズマ」ポスターの配布を行いました。

会期：4月12～18日

(4) 30回日本自然科学写真協会写真展

日本自然科学写真協会(SSP)による様々な分野の自然科学写真 70 点を、4階G棟サイエンスギャラリーに展示しました。

会期：4月29日～5月31日

(5) 第14回科学技術館万華鏡教室

4階D室イベントホールにおいて、万華鏡ワークショップを開催しました。

会期：5月3～5日

主催：日本万華鏡倶楽部

共催：(財)日本科学技術振興財団・科学技術館

(6) 栄光ゼミナールの出張理科実験教室

2階C室イベントホールにて「本当はさかさまに見ている!?! ～むしめがねカメラづくり～」(5月)、「光の色をみよう ～三角プリズムづくり～」(7月)、「みるものなんでも万華鏡づくり ～かがみと光の科学～」(9月・10月)及び「音をあやつろう ～手作り弦楽器で知る音のひみつ～」(1月)と題し、小学生を対象とした実験教室を実施しました。

会期：5月23日、7月25日、9月19日、10月17日、1月23日

(7) 情報通信月間「身近な電波を学ぶ! ～おもしろ電波教室～」

5月15日～6月15日の情報通信月間参加行事として、4階D室イベントホールにおいて工作教室をはじめとする教室を開催しました。

会期：6月5日

主催：総務省 関東総合通信局 / (財)日本科学技術振興財団・科学技術館 / 関東情報通信協力会 / 東京都電波適正利用推進員協議会

後援：(独)情報通信研究機構

協力：総務省 東京都中央テレビ受信者支援センター (デジサポ東京中央)

(8) 科学ライブショー「ユニバース」緊急特別番組「オカエリナサイ はやぶさ」

6月13日に宇宙航空研究開発機構の小惑星探査機「はやぶさ」(MUSES-C)の「地球帰還」を記念して、4階B室シンラドームの立体最新映像を活用し、緊急解説を行いました。

会期：6月5・12・19日

(9) コオロギ相撲

観音崎自然博物館の石鍋館長を講師に迎え、4階D室イベントホールにてコオロギの世界を紹介しました。

会期：6月26日

(10) 全国同時七夕講演会 2010

4階B室シンラドームの科学ライブショー「ユニバース」を特別番組構成にして参加しました。

会期：7月3・10日

主催：日本天文学会

共催：天文教育普及研究会

(11) ベネッセコーポレーション特別企画「親子で挑戦! 科学技術館スタンプラリー」

小学6年生以下のこどもとその保護者を対象に、館内3箇所のスタンプラリーを実施しました。

会期：7月17～19日、7月31日～8月1日、8月11～15日

主催：(株)ベネッセコーポレーション

(12) 第17回原子力ポスターコンクール作品募集

4階・2階のG棟にて、文部科学省及び経済産業省資源エネルギー庁の主催による、原子力・放射線をテーマにしたポスターコンクールの作品募集に協力しました。

会期: 7月17～19日、23～25日、7月30日～8月1日、8月7～11日 他

(13) 竹とんぼを作って飛ばそう

4階D室イベントホール及び工作室において、竹とんぼを作って飛ばす教室を実施しました。

会期: 7月23日

主催: どこ竹@竹とんぼ教室

(14) 親子で学ぶ自転車の科学教室「走っている自転車はなぜ倒れないの？」

2階E室北ノ丸サイクルにおいて、自転車が倒れないために車体に隠された工夫を体験を通して解説する教室を開催しました。

会期: 7月25日、8月8・12・15日、11月21日、12月19日、2月20日

主催: (財) 日本自転車普及協会 自転車文化センター

(15) キッズわんだー・スペシャルイベント2010

「青少年のための科学の祭典 2010 全国大会」開催を記念して、3階G棟日立マクセルコーナーにてマクセルおもちゃ病院で修理したおもちゃの返却やわんだーラリーを実施しました。

会期: 7月30日～8月1日

(16) ウォーターフェア'10 東京 水の展示会

「水の日」「水の週間」に合わせて、2階C室イベントホール及びG棟において展示会を開催しました。

会期: 7月30日～8月1日

主催: 国土交通省 / 東京都 / 水の週間実行委員会

後援: 文部科学省 / 厚生労働省 / 農林水産省 / 経済産業省 / 環境省 / (独)水資源機構 /

(財)日本科学技術振興財団・科学技術館 / 日本放送協会 / (社)日本新聞協会

(17) Nature Contact 夏のエコ工作体験「みんなでエコを楽しもう！」

2階G棟日立ブースにおいて、「エコ工作体験」と「エコ・科学実験ショー」を開催しました。

会期: 7月31日～8月1日、2月19・20日

(18) 2010年夏休み特別展「いきものから学ぶロボット展」－青少年の育成事業(JKA 補助事業)－

JKA の補助を受けて、いきものから学び活かされた技術を最先端のロボットによるステージと体験型の展示で紹介する夏休み特別展を、2階C室イベントホールを中心に開催しました。

会場内はロボットの「動き」「外界認識」「かたち」「頭脳」の4つの機能・仕組みに着目し、それぞれに対応する体験装置や映像を通して、実際のいきものと比較しながらロボットについて学習できるような構成にしました。研究機関や大学等のご協力で、各機能が実際のロボットでどのように実現されているかを含め、ロボットの歴史や研究の最前線を実機の展示で紹介しました。また、いきものから学び活かさ

れた技術をテーマに最先端のロボットと研究者・開発者によるステージを毎日実施し、連日たくさんの来場者で賑わいました。

会期：8月7～22日

主催：(財)日本科学技術振興財団・科学技術館

後援：経済産業省 / 文部科学省

協力：(独)産業技術総合研究所(知能システム研究部門) / デジタルヒューマン工学研究センター / 社会知能技術研究ラボ / 東京工業大学(広瀬・福島研究室) / 工学院大学(マイクロシステム研究室) / (株)アールティ / サイバーステップ(株) / (株)セック / (株)takram design engineering / (財)ニューテクノロジー振興財団

(19)石炭実験教室

石炭の日「クリーン・コール・デー」の催しとして、4階D室イベントホールにおいて石炭をテーマとした実験教室を開催しました。

会期：8月10・11日

主催：クリーン・コール・デー実行委員会

(20)特別教室「ワクワク実験隊 ～鉄の不思議教室」

1階催物場2号館において小学校4～6年生を対象に、実験体験やクイズを通して鉄を学ぶ教室を実施しました。

会期：8月11日

主催：(社)日本鉄鋼連盟

(21)科学戦隊「実験ジャー」ショー

「神出鬼没のため、館内のどこかで!？」という予告で、サイエンス・エンターテイメントショーを実施しました。

会期：8月14～16日

(22)平成22年度 科学技術における「美」パネル展

「第5回 科学技術における『美』パネル展」として本年の科学技術週間に公開された、研究者から公募した美しく感動的な画像25点を、4階G棟サイエンスギャラリーに展示しました。

会期：8月21日～9月30日

共催：(財)日本科学技術振興財団・科学技術館 / 科学技術団体連合

(23)特別教室「サイクルサイエンス教室」－自転車体験学習により青少年の育成事業(JKA 補助事業)－

JKAの補助を受けて、小学校3年生以上を対象に、4階I室パソコン道場において自転車の秘密を徹底分析する教室を開催しました。

自転車の歴史や技術の変遷、自転車の様々な秘密(自転車バランスの秘密、車輪の秘密、車体の強さの秘密など)を知ってもらうために、参加体験型のショー形式でいろいろな実験を実施しました。また、パソコンでオリジナル自転車を作り、それをTシャツに貼り付けてプレゼントしました。

会期:8月22日・9月26日・10月24日・11月28日 各日 午前1回・午後1回

なお、3月27日にも開催を予定していましたが、東日本大震災の影響で中止しました。

(24) 第1回国際科学映像祭スタンプラリー

スタンプラリー27会場のひとつとしてスタンプを設置し、4階B室シンラドームを中心に館内の様々な映像コンテンツをご覧いただきました。

会期: 9月11日～10月11日

(25) 特別教室「浮遊映像表示モニター“フローティングビジョン”を体験しよう！」

4階工作室において浮遊映像を体験する特別教室を開催しました。

会期: 9月11日

協力: パイオニア(株)

(26) サイエンスフィルムカフェ2010 ～科学映像がおもしろい～

第1回国際科学映像祭のプログラムのひとつとして、4階I室宇宙のひろばにおいて映像作品上映とトークイベント等を実施しました。

会期: 9月18～20日

(27) 科学ライブショー「ユニバース」中秋の名月特別番組「月の謎にせまる！」

4階B室シンラドームの科学ライブショー「ユニバース」を特別番組として上演し、ゲストにアマチュア天文家としても活躍されている小泉伸夫氏を迎えて月に関する様々な話題を紹介しました。

会期: 9月18日

(28) ワクエコ・カーモデラー教室

2階D室ワクエコ・モーターランドにおいて、小学生・中学生を対象にプロのカーモデラーと一緒にクレイモデル造形に挑戦する教室を開催しました。

会期: 9月23日、11月23日

主催: 日本カーモデラー協会 / 一般社団法人 日本自動車工業会

(29) 宇宙をアートしよう

「東京国際科学フェスティバル2010」の参加イベントとして、4階B室シンラドームの全天周立体映像番組「天の川銀河」の上映後に4階D室イベントホールにてアクリル系の絵具で宇宙を描くイベントを実施しました。

会期: 9月23日

主催: 林檎の会 / (財)日本科学技術振興財団・科学技術館

後援: 特定非営利活動法人 日本臨床美術協会

協賛: ホルベイン工業(株)

(30) 第28回マイクロマウス東日本地区大会

2階C室イベントホールにて迷路を走行する自立知能ロボットの競技会を実施し、当日ご来館の方にも観戦していただきました。

会期: 9月26日

主催: マイクロマウス委員会東日本支部 / (財)ニューテクノロジー振興財団

共催: (財)日本科学技術振興財団・科学技術館

(31)地球深部探査船「ちきゅう」共同首席研究者 高井研×サッシャ スペシャルトークイベント

4階I室宇宙のひろばにおいて、海洋研究開発機構(JAMSTEC)の地球深部探査船「ちきゅう」が9月1日～10月3日に行ったばかりの沖縄トラフにおける研究航海についてのトークイベントを開催しました。

会期: 10月9日

主催: (独)海洋研究開発機構

共催: (財)日本科学技術振興財団・科学技術館

後援: IODP (Integrated Ocean Drilling Program) Management International, Inc.

(32) JAMSTEC ちきゅう研究航海特別展示 ～神秘につつまれた海底下生命圏の謎に迫る～

上記トークイベントに合わせて、4階I室宇宙のひろばにて、「ちきゅう」や研究航海についての特別展示を行いました。

会期: 10月9～11日

主催: (独)海洋研究開発機構

共催: (財)日本科学技術振興財団・科学技術館

後援: IODP (Integrated Ocean Drilling Program) Management International, Inc.

(33)「地層処分」簡易イベント

3階E室アトミックステーション ジオ・ラボ前において、全国にある電力PR館イベントの一環として、原子力発電環境整備機構(NUMO)職員による地層処分に関する展示とベントナイトの実験を実施しました。

会期: 10月16日

(34)ノーベル賞特別講演会

日本人の科学者2名がノーベル化学賞を受賞したことを記念し、自然科学分野のノーベル賞受賞研究について紹介する緊急講演会を、4階B室シンラドームにおける科学ライブショー「ユニバース」を特別構成として開催しました。

会期: 10月16日

(35)宙博(ソラハク)2010

総務部業務グループに協力し、2階C室イベントホール及び4階D室イベントホールでのワークショップとキッズプログラムをサポートすると共に、会期中の午後に4階B室シンラドームにおいて科学ライブショー「ユニバース」特別番組を上演し、全館をあげて宇宙・天文に関する催しとしました。

会期: 10月29～31日

主催: 宙博実行委員会

(36)第41回市村アイデア賞作品展

2階G棟サイエンスギャラリーにおいて、科学技術館館長賞を含む入選作品(12点)の展示を行いました。

会期: 11月20日～12月5日

主催: (財)新技術開発財団

また、受賞作品の関係者を集めて、表彰式を11月22日にサイエンスホールで開催しました。

(37) 第11回日本万華鏡大賞公募展

4階I室宇宙のひろばにおいて、入選以上の作品の展示を行いました。

会期: 12月5～12日

主催: 日本万華鏡倶楽部、(財)日本科学技術振興財団・科学技術館

(38) 全国オーロラ講演会 2010

4階B室シンラドームの科学ライブショー「ユニバース」を特別番組構成にして参加しました。

会期: 12月25日

(39) キュリー夫人の理科教室

2011年が世界化学年であること、またキュリー夫人のノーベル化学賞受賞から100年目にあたることから、4階I室宇宙のひろばにおいて、キュリー夫人の生涯や実験を紹介する教室を実施しました。

会期: 1月15日、2月12日

主催: サイエンス スタジオ・マリー

協力: (財)日本科学技術振興財団・科学技術館

(40) 特別教室「ものづくり体験 ～たたら製鉄実験イベント」

現代の鉄づくりをしている製鉄所の見学(JFEスチール(株)東日本製鉄所)と「たたら製鉄」で実際に鉄をつくり(事前学習:第1会議室、製鉄実施:催物場2号館搬入口前)、「ものづくり」の不思議さ・楽しさを肌で感じ取ることができる教室を開催しました。たたら製鉄の様子は一般の方にも自由にご覧いただけるようにしました。

会期: 1月29日(見学会)、2月5日(事前学習)、2月6日(たたら製鉄)

主催: (社)日本鉄鋼連盟 / (財)日本科学技術振興財団・科学技術館

指導: 特定非営利活動法人 ものづくり教育たたら

(41) 第10回「国土交通Day」図画コンクール・フォトコンテスト入賞作品展示会

2階G棟サイエンスギャラリーにおいて、国土交通省主催「国土と交通に関する図画コンクール」入賞作品(84点)及び建設広報協議会主催「第15回豊かで住みよい国づくりフォトコンテスト」入賞作品(100点)の展示を行いました。

会期: 2月11～20日

(42) 「実験体験建設のふしぎ! けんせつフェスタ 2011」

4階F室建設館との連動型イベントとして、4階D室イベントホール、4階G棟サイエンスギャラリー、建設館、その他全館を会場に「さがそう、たからもの(スタンプラリー)」「実験・体験ワークショップ」「けんせつ学校(おもしろアカデミー)」「けんせつ遊園地(ぬりえコーナー)」を実施しました。会期中は無料開館としました。

会期：2月19・20日

主催：(社)日本建設業団体連合会 / (社)日本土木工業協会 / (社)建設業協会

(43)FOREST ミニイベント

①春休みワークショップ「FORESTQUEST ―偏光板の秘密―

会期：4月3・4日

②まさつで遊ぼう ―ふうせんホバークラフトづくり―

会期：5月15・22日

③FOREST 七夕2010 ―オリジナルの笹に願いをこめて―

会期：7月1～7日

④まっくら体験イベント ～シカクい部屋には視覚がない

会期：9月3～6日

⑤FOREST 探検隊のクリスマス ～虹色の万華鏡を作ろう～

会期：12月18・19日

⑥FOREST かんたん工作「ダンボール空気砲をつくろう」

会期：1月22・23日

(44)科学技術館スタッフプログラム

①「よんでためそう かがく絵本～科学絵本の読み聞かせと実験ショー～」(すずきまどか)

4階I室宇宙のひろばにて、科学絵本の読み聞かせと掲載されている実験の実演を行いました。

会期：5月4日・6月19日

②「手作り実験道具MINI 屋台 ―シンプルなのに味なヤツら―」(名波友貴)

4階G棟において、手作り実験道具の実演と紹介を行いました。

会期：7月3日・8月24日

③実験ショー「エレベーターの技術をさぐれ!」(中村隆)

4階I室宇宙のひろばにおいて、エレベーターの基本的な技術や最新の技術を実験で紹介しました。

会期：7月18日

協力：三菱電機(株)

④実験ショー「太陽電池のかくれた技術」(中村隆)

4階I室宇宙のひろばにおいて、太陽電池の発電効率を上げるための工夫を実験で紹介しました。

会期：10月23日

協力：三菱電機(株)

⑤「Let's 科学捜査体験! 光る絵文字を探し出そう!!」(中尾宙、本橋真衣、赤石千佳)

5階H室ゲノムにおいて、インストラクターと実験演習スタッフの共同企画・実演による科学捜査をテーマにした実験プログラム(ルミノール反応実験)を行いました。

会期：12月4日

⑥「科学技術館のひみつ実験コーナー」(丸山義巨)

4階G棟エスカレータ横において、さまざまな実験の展示装置を体験するイベントを実施しました。

会期: 1月15日

4. 巡回展事業

(1)巡回型展示「いきものから学ぶロボット展」の制作

(別項P15 (18)2010年 夏休み特別展 参照)

(2)巡回展示物の貸出

①美を科学する・美-Make展

3月20日～4月11日 於:新潟県立自然科学館

②マグネット展

3月20日～4月4日 於:ムシテックワールド

7月17日～8月31日 於:佐久市子ども未来館

③地球環境展

3月20日～4月11日 於:グランディ科学ランド

④スポーツを科学する

4月29日～5月9日 於:通信総合博物館

7月17日～10月31日 於:沖縄こどもの国

⑤万華鏡展

7月17日～8月31日 於:つくばエキスポセンター

⑥感覚・体感フィールド展

2月5日～3月31日 於:沖縄こどもの国(4月1日～5月30日も継続して実施)

(3)サイエンスショー、科学演劇の開催

①実験ジャー

4月17日 於:理化学研究所和光研究所

8月22日 於:越谷市科学技術体験センターミラクル

11月21日 於:汐留シティセンター(汐留シティセンターファミリーデー2010)

②サイエンスバーチャルファイター

8月1日 於:越谷市科学技術体験センターミラクル

③実験ショーの実施

開催日	開催場所(イベント名)	発注者	演者
7月25日	シゼコン理科教育ラボ	毎日広告社	すずきまどか 名波友貴
8月1日	トントゥビレッジ サイエンスフェスタ	東和エスピー	すずきまどか
10月9日	原山小学校実験ショー	原山小学校PTA	早武真理子

12月13～14日	東北電力サイエンスショー	東北電力(株) 女川原子力発電所	すずきまどか
3月3日	池尻小学校実験ショー	池尻小学校	すずきまどか

*他11件の実験ショーを実施しました。

5. 展示の新設、更新、実験体験プログラム開発など

(1) 理科実験学習支援システムによる青少年の育成事業（JKA補助事業）

情報システム開発部と科学技術館事業部と共同で実施する事業で、今年度から2年計画で、科学技術館の常設展示室(8室)で行っている実験、ワークショップについて、自宅のパソコンで復習できるウェブサイト(メンバーズページ)を開発し、運用を行うものです。ウェブサイトには、実験等のビデオ動画および背景にある原理、理論等の解説や、身近で利用されている応用例・関連技術情報等の紹介を掲載します。

初年度の平成22年度においては、全体のシステム開発と3室分のコンテンツ作成を行い、平成23年度に残りの5室分のコンテンツ作成を行う予定です。今年度は、全体のシステム開発を行い、7月30日に第1室目の「デンキファクトリー」、12月1日に第2室目の「ガスクエスト」、2月16日に第3室目の「建設館」の公開をおこないました。

(2) 「犯罪捜査で活用される科学技術」に関する巡回展示の実施(日本財団助成事業)

企画内容を具体化するため、有識者による制作企画委員会を実施し、運営方針・制作内容の仕様を決定しました。本展示については科学捜査紹介コーナーと科学捜査体験コーナーの2つのコーナーで構成し、制作内容・仕様に基づき、平成22年度では「科学捜査概要」、「指紋鑑定」、「筆跡鑑定」の展示および捜査体験システムの制作を行ないました。なお平成23年度の制作物と合わせて平成23年8月に科学技術館特別展として「科学捜査展」を開催します。

(3) 「可搬型立体ドームシアターシステム開発・制作」(日本宝くじ協会助成事業)

本事業では、(財)日本宝くじ協会の助成で、科学技術館に設置されている立体デジタルドーム Synra と同等の性能を持ちながら可搬可能な立体ドームシアターシステムを設計・制作しました。

II. 他館の運営事業

1. 所沢航空発祥記念館運営(埼玉県受託事業)

埼玉県が平成5年4月にオープンした所沢航空発祥記念館の管理運営業務について、埼玉県公園緑地協会とパートナーを組み「指定管理者」として選定され、平成20年度から5年間の基本委託契約のもと、22年度で3年目が完了しました。当財団の経験や実績を活かし、青少年をはじめ一般を対象とした展示活動から建物および展示施設までの全般的な管理・運営業務を実施し、わが国の科学技術の普及啓発に貢献している事業です。

(1) 展示館・大型映像館の活動

① 展示品の拡充維持運営等

団体および個人から航空に関する資料等約 280 点を収集しました。主な内容は以下のとおりです。

展示資料	点数
陸軍航空整備学校の帽章及び同校で使用された書籍	3
少年航空兵使用と伝わる外套	1
旧日本エアシステムの地上職員の制服・制帽	4
陸軍九七式重爆撃機の整備用工具一式	1
書籍	32
雑誌	24
図面	18
ネガフィルム	149
ライトフライヤーの 60%サイズの模型	1
名古屋市科学館から展示物「翼の浮く理由」の譲渡の受け入れ	1
航空資料の寄贈・雑誌等	29
その他写真、書籍等	17

② 航空関係資料の処分

5月12日に収蔵庫内の陸軍三式戦闘機「飛燕」の機銃弾を所沢警察署に持参し処分を依頼しました。

③ 展示施設の修繕・保守

実施期間	修繕及び修繕が必要であった理由	修繕内容
H22.6/14	平成 22 年 3 月実施の消防設備点検での指摘事項対策	誘導灯バッテリーの交換、 不良煙感知器の交換、 受信盤絶縁抵抗不良の調整
6/25	1 階展示室「ベルヌーイの研究室」で使用しているコンプレッサーが故障したため	エアーコンプレッサーの修理
8/10	吸収式冷温水機(1号機)が故障し冷房が効かなくなったため	冷温水発生装置(No1)真空維持装置の部品交換

*他 12 件

④ 展示の更新

1) 展示リニューアル

平成 22 年度の埼玉県予算において、「所沢航空発祥記念館魅力アップ事業」として、展示リニューアル工事を実施しました。主に、体験装置の設置を中心に、月や惑星の重力を映像とリンクして体験する新しい形の「スペースウォーカー」、2 軸揺動型の「フライトシミュレータ」、そして飛行機の飛ぶ原理を中心にわかりやすい実験や工作教室を展開する「ワークショップ」を製作・設置し、東日本大震災の影響で、公開が遅れましたが平成 23 年 4 月 15 日(金)にオープンすることが出来ました。また、これに併せて記念館エントランスのリニューアル工事を実施しました。なお、これに伴い「ジャンボジェットシミュレータ」、「データセンター」、「大空の巨人たち」は

撤去されました。

2) エントランスのリニューアル

インフォメーションカウンターや出入口の動線変更、52 インチ情報モニター(館内案内・イベント告知用)を埋め込んだ光壁の設置等を中心にリニューアルを行い、エントランスイメージを一新しました。こちらは平成23年4月29日(金)にオープンしました。

いずれの工事も、所沢航空発祥100周年記念事業の一環として、位置づけられ実施されたもので1995年の開設以降、初めての大きかりな展示リニューアルとなりました。

⑤ 展示資料の貸与

- 1) 「天までとどけ」のDVDの貸与(熊本県人吉市・鹿児島空港ビルディング(株))
- 2) 当館所蔵レオナルド・ダヴィンチの羽ばたき機模型の貸与(佐賀県立宇宙科学館)
- 3) 当館所蔵徳川好敏関係文書類・飛行機写真の提供(白根記念渋谷区郷土博物館)
- 4) 当館所蔵徳川好敏関係文書類の写真撮影許可(航空科学博物館)
- 5) 川崎重工業(株)航空宇宙カンパニーの社員で構成されるボランティアチーム「K-VART」に対して陸軍三式戦闘機「飛燕」及び同機のエンジンに関する書籍を貸与

⑥ 書籍及び雑誌編集への協力

- 1) 4月21日発行の村岡正明氏「初飛行」(光人社NF文庫)執筆にあたり、当館所蔵の徳川好敏関係資料を提供し協力しました。
- 2) 6月5日発行の羽田空港宇宙科学館推進会議の会報「羽田の青い空」に掲載された徳田忠成氏「木村・徳田両中尉殉職後日譚」の執筆にあたり資料を提供し協力しました。
- 3) 4月21日発行の酣燈社「航空情報」6月号に当館近藤課長代理が執筆した原稿「ある日本人パイロットのあゆみとダグラス旅客機」が掲載されました。

(2) 特別展等の開催

① 展示館の活動

特別展・イベント	会期	内容
GW特別展 「モーション型フライトシミュレータ体験」	4/29-5/5	春休み特別展で好評であったモーション型フライトシミュレータ2台を展示し、内1台は周囲を暗幕で囲い夜間飛行の設定としました。
所沢航空ジャンク市	6/19・20 12/4-5	航空機器部品の展示・即売会を実施しました。
夏休み特別展 「3D デジタル展」	7/31-8/29	3D デジタルをテーマとして「恐竜キング」オリジナル 3D 作品の上映や家庭用 3D テレビ展示、各種 3D の原理紹介・ワークショップを開催しました。
秋の特別展 「日本人パイロット1世紀のあゆみ ～憧れの空から、みんなの空へ～」	10/23-11/30	日本人パイロット1世紀の歴史を「パイロットの養成」、「コックピットの変遷」の2テーマで紹介しました。
冬の特別展 「所沢ギャラクシーパーク」	12/23-1/30	万華鏡の部屋や迷路など体験型アトラクションイベントを実施した。

*他14件

②格納庫・収蔵庫およびYS-11機の特別公開

展示「YS-11機」と別棟にある格納庫・収蔵庫を一般に公開し機体の解説を行いました。

- 1) 格納庫の公開日 実施日：4/3・4、10/30・31、11/14
- 2) YS-11機の公開日 実施日：4/3・4、5/29、10/31、11/14・21

※3/27の格納庫・YS-11機の公開は、東日本大震災の影響で中止となりました。

③公開講座の開催

- 1) テーマ「夢を翔んだ翼 ボイジャー 無給油無着陸の世界一周機」
開催日：平成22年6月19日(土)
講師：樋口敬二氏(名古屋大学名誉教授 元 名古屋市科学館館長)
- 2) テーマ「中島飛行機・富士重工業の名機と所沢」
開催日：平成22年7月3日(土)
講師：平本 隆氏(帝京大学理工学部教授 航空宇宙工学科学科長、元 富士重工業(株) 航空宇宙カンパニー 航空機設計部 部長)
- 3) テーマ「航空交通管制と東京航空交通管制部施設見学会」
開催日：平成22年9月18日(土)
講師：東邦彦氏(国土交通省東京航空交通管制部 主幹航空管制官)
- 4) テーマ「初飛行～100年前の代々木・所沢の空の真実～」
開催日：平成22年11月20日(土)
講師：村岡正明氏(航空史家)
- 5) テーマ「フライトを『作る』～女性パイロット・運航管理者(ディスパッチャー)が語る安全・快適～」
開催日：平成22年11月28日(日)
講師：立川 円氏(日本航空 運航本部 767 運航乗員部 副操縦士)
宮本真理子氏(日本航空 オペレーションコントロールセンター運航管理室 国際線グループ 航務管理者)

※平成23年3月19日に予定されていた「ANA とボーイング 787 型機」は東日本大震災の影響で中止となりました。

(3)大型映像館の上映フィルムの更新

作品	上映期間	内容
通常上映 「アニマロポリス」	4/10-6/30	動物の知られざる生態をユーモラスに描いた作品である。
通常上映 「プレヒストリック・パーク」	7/1-9/30	恐竜の実態と恐竜を現代に連れてきて繁殖させるというSF的な作品である。
通常上映 「マジック・オブ・フライト」	10/1-12/28	ライト兄弟以来の飛行の歴史や飛行原理の紹介の他、アメリカ海軍航空隊の曲技飛行チーム「ブルーエンジェルズ」の迫力ある飛行シーンで校正された作品である。
通常上映 「ギリシャ ～壮大なる考古の旅～」	1/2-3/31	北の彼方にオリュンポスの聳える大地や美しいエーゲ海に浮かぶ島々を舞台に人々が神話の英雄たちとともに生きていたギリシャの輝かしい時代を紹介する作品である。
※東日本大震災のため3/15以降上映中止		

*他に季節毎の大型映像フェスティバルが4件

(4) 連携活動

実施日	連携活動
4/20	埼玉県博物館連絡協議会西部地域会議に出席
4/23	埼玉県博物館連絡協議会総会に出席
6/ 9	所沢航空資料調査収集する会総会に出席
6/25	平成 22 年度第 1 回全国科学博物館協議会総会に出席
2/17	平成 22 年度埼玉県博物館連絡協議会西部地区研修会に参加

(5) 利便性の向上

特別展割引チケット・ファミリーパスポート・シルバーカップルパスポート・インターネット割引券等を発行し、利用者の利便性を図りました。

(6) 記念事業活動

① 航空発祥 100 周年記念事業

- 1) 7 月 8 日 : 第 1 回実行委員会が開催され、平成 22 年度の事業推進状況が報告されました。
- 2) 8 月 19 日 : 第 2 回実行委員会が開催され、平成 23 年度に委員会として実施する事業計画案が協議されました。
- 3) 11 月 11 日に役員会、11 月 24 日に実行委員会を開催しました。
- 4) 1 月 12 日に役員会、2 月 8 日に実行委員会を開催しました。

※東日本大震災のため実行委員会による 4 月以降の催事は全て中止・延期・凍結となりました。

② 「県民の日」記念事業

会 期 : 11 月 14 日

内 容 : 埼玉県民の日を記念して、記念館の各施設(展示館、大型映像館、格納庫・収蔵庫、YS-11 機)を一般に無料公開しました。入場者は合計 8,357 名でした。

(7) 広報活動

① 一般広報

- 1) 埼玉県政記者クラブ・所沢市政記者クラブおよび他のマスコミ関係に対し展示更新、映像ソフト変更時に資料を提供し、記事掲載、取材等の依頼を行いました。
- 2) 埼玉県内および都内、近県の主要博物館にポスター掲示とチラシの配布を依頼しました。
- 3) 航空公園駅内に案内看板を設置し PR を常時行いました。
- 4) マスコミ各社の取材や各企業の社内報の掲載取材にも対応し、PR を行いました。
- 5) 彩の国だより(埼玉県発行)、翔びたつひろば(所沢市発行)に記事掲載を依頼しました。
- 6) ホームページを利用して広報を行いました。

(8) 特別広報

- ① 埼玉県政記者クラブ・所沢市政記者クラブおよび他のマスコミ関係に対し企画書等の資料を提供し、記事掲載や取材等を依頼しました。
- ② 彩の国だより、翔びたつひろばに開催告示の掲載を依頼しました。

③所沢市周辺の児童館、学童クラブ、小中学校に対し PR 用ポスターの掲示、チラシの配布を依頼しました。

④埼玉県内および都内、近県の博物館にポスターの掲示を依頼しました。

⑤新聞広告による告知を行いました

⑥航空公園駅の駅頭のYS-11 展示場フェンスに横断幕を設置しました。

⑦西武線の電車内やターミナル駅にイベントの広告を掲示しました。

⑧所沢市の広報誌に広告を掲示しました。

(9) 団体誘致活動

①埼玉県内および都内・近県の幼稚園、保育園、小・中学校にパンフレットを配布しました。

②埼玉県内および都内・近県の旅行者に対しパンフレットを配布しました。

③所沢市内の児童館に対しパンフレットを配布しました。

(10) ホームページの充実強化

記念館ホームページの英語版を作成し、10月25日に本番環境にアップロードしました。所沢航空発祥記念館の展示内容や特別展・公開講座・工作教室・友の会情報等をタイムリーにホームページでの更新を行い、利用者の利便性を図りました。

(11) 普及啓発活動

①学習プログラム(学習ノート、展示ガイドツアー)の実施

1) 展示館内にワークシートを設置し、展示見学の学習サポート要素を追加いたしました。

内 容：所沢の歴史編、飛行機の名前編、研究室たんけん編

2) 展示ガイドツアー・コックピット搭乗体験の実施

・団体やグループからの希望を受けて「日本の航空発祥の地・所沢」の歴史や、飛行の原理について、ガイドツアーを実施しました。

実施日：7/30、9/8、10/1・6・14・23、11/17、12/14、2/20・25、3/3・8

・ T-1B・T-6G コックピット搭乗体験

館内の展示機である T-1B と T-6G の操縦席に座ることができる搭乗体験を開催しました。

実施日：T-1B(4/11、6/13、9/12、10/10、12/12、1/16)、T-6G(5/9、7/11、8/8、2/13)

3) 埼玉県教育局生涯学習文化財課主催「子ども大学とろざわ」において、「風洞実験装置を用いた揚力の発生と迎角について」「人力飛行機について」の講義を行ないました。

②ワークショップ・実験ショー等の開催

区分	工作名	開催日
工作教室	紙ブーメラン工作	7/10・17・19・31、8/7・13・14・21・28、9/4・11・18・23・25、1/15・16・29、2/5・6・19・20・26、3/6
	プラ板キーホルダー工作	4/2・4・18・29、5/2・3・5・16・23、6/5、7/18、8/15・29・31、9/5・20・26、1/23・30、2/13・27、3/5
	UV アート工作	4/3、5/5・9、8/1、9/12、1/8、2/12
	他（紙飛行機工作、室内飛行機等）	59 回

実験ショー	「実験でエコカーを解き明かそう！」 講師：チャーリー西村氏	6/27
	「風船で遊びまショーver. III」 講師：川上義孝氏、岩富しげみ氏	7/11
	「飲み物・食べ物を科学しよう！」 講師：工藤博幸氏	8/115
	「浮くか沈むか？大実験」 講師：船田智史氏	9/25

③友の会「キッズ・チャレンジ倶楽部」の実施

区分	教室名	人数
はじめの教室	謎のブラック・ボックス1他 計2回	61
自然観察教室	公園自然観察会 春他 計7回	122
科学実験教室	シャボン玉の科学その1他 計12回	294
科学工作教室	分光器を作ろう他 計10回	168
工作教室	いろいろな形の画用紙コマ他 計6回	107
数学教室	コンパスと定規による作図他 計2回	61
視察見学会	羽田空港と日本科学未来館見学 計4回	46
ワークショップ	拓本とフロッタージュ他 計2回	28
	合計	887

(12) ボランティア活動の充実

航空機インストラクターとして登録されたボランティアにより次の活動を行いました。

①飛行機教室の開催

- ・毎月の第2・4土曜日に開催し、紙飛行機やゴム動力飛行機の製作指導を行いました。
- ・奇数月の日曜日を利用して年6回の室内飛行機の製作指導を行いました。
- ・GW(5月3日)に展示館入館者を対象とした特別工作教室を行いました。
- ・出張工作教室を年2回行いました。
- ・凧工作教室を開催し、「こま凧」の製作指導を行いました。

活動内容	実施日
飛行機工作教室	4/10・24、5/8・22、6/12・26 7/10・24、8/14・28、9/11・25、10/9・23、11/13・27、12/11・25、1/8・22、2/12・26、3/12
室内飛行機工作教室	5/9、7/4、9/5、11/7、1/9、3/6
臨時飛行機工作教室	4/28、5/9・13、8/4・21、11/19、12/4・2/5・3/31
出張飛行機工作教室	11/16・23
特別飛行機工作教室	5/3
凧工作教室	1/3

②飛行機操縦席搭乗体験の運営協力

実施日	実施機	体験者
5/9	T-6G	185
6/13	T-1B	259
7/11	T-6G	215
8/8	T-6G	257
9/12	T-1B	276
10/10	T-6G	276
12/12	T-1B	321
1/16	T-1B	258
2/13	T-6G	275

③展示航空機保守メンテナンス

- ・展示航空機の保守メンテナンスを実施しました。

④展示解説

- ・格納庫・YS-11 機の一般公開時に展示航空機に対する質問対応を行いました。
- ・常設展示の解説を行いました。
- ・「所沢メモリアルギャラリー」を中心に「日本の航空発祥の地・所沢」の意義をガイドツアーで紹介しました。

⑤「総合的な学習の時間」で来館した児童・生徒の質問に対する質問対応

- ・当館に「総合的な学習の時間」で来館した児童・生徒の質問に回答しました。

(13)その他の活動

①中学校職場体験の受け入れ

所沢市立三ヶ島中学校からの職場体験依頼があり、2年生の生徒3名を受け入れ、特別展の撤収や夏休み特別展のチラシ袋詰め等の業務を行いました。(実施期間：6月22日・23日)

②ミュージアム・ショップ活動

展示館内での航空部品・グッズを販売するジャンク市開催のため、アメリカへの現地市場調査およびジャンク品の購入を行いました(現地調査期間：11月2日～7日)。12月4日・5日に所沢ジャンク市を開催し、航空機部品・グッズを販売しました。

③レストラン活動

レストランの運営会議を開催し、売上状況の分析や販売企画等を検討しました。

(7月2日、8月6日、9月2日、10月15日、11月25日、12月24日、1月21日、2月24日)

④指定管理者関連

- 1) 6月18日に埼玉県による指定管理者業務の第1回定期モニタリングが実施されました。
- 2) 6月22日に指定管理者グループである(財)埼玉県公園緑地協会との第1回運営委員会が実施されました。
- 3) 10月13日に埼玉県による平成22年度記念館の長寿命化計画について、ヒアリング・現地調査が実施されました。
- 4) 10月22日に埼玉県による指定管理者業務の第2回定期モニタリングが実施されました。

5) 11月19日に指定管理者グループである(財)埼玉県公園緑地協会との第2回運営委員会が実施されました。

6) 2月3日に埼玉県による指定管理者業務の第3回定期モニタリングが実施されました。

7) 記念館設備・建物の修繕・改修の中・長期計画作成のための会議を埼玉県公園スタジアム課と実施し、設備・建築物の維持・保守管理を進めました。

8) 所沢飛行場ジオラマ模型の製作・設置

所沢飛行場開設100周年記念特別展(大震災で延期)で展示予定だった、100年前の4月5日、アンリファルマン機が所沢飛行場において初飛行した様子を再現した可動式ジオラマ模型(縮尺:1/150)を1階インフォメーション横に設置し、4月2日より一般公開しました

9) 展示物の譲渡と活用

名古屋市科学館から、飛行機の飛ぶ原理を紹介した展示物「翼の浮く理由」の譲渡を受け、9月29日から展示公開を行いました。既存展示の風洞実験装置を補完する展示物として活用しています。

10) 入館者状況

(単位:人)

入館者数		平成22年度	平成21年度
有料	展示館	62,050	66,008
	大型映像館	17,498	16,962
	小計①	79,548	82,970
無料	展示館	114,496	128,336
	大型映像館	31,602	30,517
	小計②	146,098	158,853
合計①+②		225,646	241,823

※ 東日本大震災の影響で、15日間の臨時休館となった結果、前年比16,177人減となりました。

※ また、平成22年11月3日に開館以来の入館者が450万人に達成し、記念セレモニーを実施しました。

2. 国立ハンセン病資料館の運営(厚生労働省受託事業)

(1) 教育啓発機能関連業務

① 講座(成田館長による医学講座): 25回実施(聴衆1,105名)

② 佐川修氏、平澤保治氏による館内での語り部活動: 157回実施(聴衆6,475名)

③ 学芸員による展示解説・団体対応: 226回、学芸員による講演: 2回実施(聴衆53名)

④ 学習支援活動(講師派遣、移動展示、資料貸し出し)

依頼により語り部の講師派遣活動を18回(聴衆6,430名)行いました。

依頼により学芸員の講師派遣を6回(聴衆1,710名)行いました。

依頼による資料貸し出しは19件でした。

⑤平成 22 年度国立ハンセン病資料館語り部の記録ビデオ映像制作

国立ハンセン病資料館語り部の講演を記録し、ビデオ作品を制作する事業を平成 21 年度からの 2 カ年計画で実施しました。2 年目の平成 22 年度は平澤保治氏の「小学 5・6 年生対象」作品、佐川修氏の「一般、医療・看護学生対象」、「中学生対象」の 3 作品を制作しました。

また、平成 21～22 年度制作の上記語り部ビデオから小中学生を対象とした平澤氏の 3 作品を教材ビデオ(DVD)とし、その配布規定を制定し、配布用に各 500 枚(3 種合計 1,500 枚)をプレス製作しました。また、同作品の副教材となるリーフレットを作成し、平澤氏の語り部活動にあわせて配布を始めました。

⑥学校教育との連携

1) 学校教育の場におけるハンセン病資料館の協力のあり方に関する調査研究

学校教育の授業等においてハンセン病問題を取り上げていただくために、学校に対する資料館の協力のあり方を、近隣市教育委員会および小中学校の協力を得て、アンケート調査しました。

2) 小中学校への送迎バス配車サービス

送迎バス配車サービスのモニター学校募集案内を、東村山市及び周辺市の小中学校へ配布し、9 件に対し送迎バスの配車をしました。また、平成 23 年度送迎バスサービス対象校の募集を 2 月に行い、11 校(12 件)の応募者に配車決定を通知しました。

⑦講演会・シンポジウム

1) 夏季映画上映会を実施しました。

8 月 22 日 「未来への虹」上映と平澤保治氏の挨拶、「風の舞」上映と宮崎信恵監督の挨拶

8 月 29 日 「未来への虹」上映と平澤保治氏の挨拶、「あつい壁」上映と中山節夫監督の挨拶

2) 秋季企画展『「全生病院」を歩く』の付帯事業として、11 月 6 日に映像ホールにて企画展の展示解説と多磨全生園のフィールドワークを行いました。

(2) 展示機能関連業務

①常設展示の更新

常設展示室 1、2、3 の入り口にサインバナー(タペストリー)を設置し、展望ギャラリー(常設展示室 2 から 3 への通路)の絵画作品 3 点の展示替えを行いました。また、常設展示 3 の証言映像コーナーに追加する海外証言映像の編集を実施しました。

②企画展示

1) 春季企画展「着物にみる療養所の暮らし」の開催

会期：4 月 24 日～7 月 25 日

「療養所において着られた服」から療養所での生活を浮かび上がらせる目的で、現在まで残っている数の少ない衣類等資料をとおして、療養所の中の暮らしを展示しました。会期中に、当時を知る女性入所者をお招きしたギャラリートークを 3 回行いました。

2) 秋季企画展『「全生病院」を歩く』の開催

会期：9 月 25 日～12 月 26 日

国立療養所「多磨全生園」の前身は、1909年創立の連合府県立「全生病院」です。「土塁(どるい)・堀」「板塀(いたべい)」「垣根」等の遮蔽物(しゃへいぶつ)で囲われ、ハンセン病患者を隔離した場所であり、その外側に暮らす人々は、ほとんど足を踏み入れることのない場所でした。本展では、療養所の設立以来の写真や構内図を利用して、「全生病院」を視覚的に復元しました。

3) 冬季ギャラリー展「高山勝介作陶展」の開催

会期：2月11日～3月6日

高山勝介氏が制作した作品を高山氏のあゆみを知ることができる写真とともに紹介しました。会期中に展示替えを行い、計53点の作品を展示しました。

4) 平成23年度春季企画展「かすかな光をもとめて―療養所の中の盲人たち―」展の準備

4月下旬から開催する標記企画展の準備を行い、3月から広報を開始しました。

③ 関連機関やその他団体への施設貸し出しによる企画展示

1) ギャラリーにおいて、長島愛生園歴史館制作パネル「世界の島は語る」を展示しました。

会期：8月7～8月29日 主催：長島愛生園歴史館

2) 春季ギャラリー展「みちのり(旧ハンセン病図書館員 山下道輔氏)2002-2010」

会期 3月26日～4月10日 主催：ハンセン病文庫・朋の会

黒崎彰氏の撮影した山下道輔氏の写真展を行いました。

(3) 収集保存機能関連業務

① 収集

1) 寄贈

各園の歴史資料調査の機会に松丘保養園から資料約300点を受贈しました。企画展の関係では、故伊藤秋夫氏撮影の額装写真25点を受贈し、松丘保養園、菊池恵楓園において盲人会関係資料を受贈しました。その他個人、団体から受贈しました。

2) 購入

古書県史、古書市町村史、県警察史、内務省史等を購入しました。

3) 借用

企画展での展示のため、盲人会関係資料や高山勝介氏制作作品を借用しました。

② 保存・収蔵

1) 9月10～13日に 展示資料保存のため、臨時閉館して展示室2・3の殺虫・殺卵・殺黴密閉燻蒸を行いました。また、2～3月に平成22年度新収蔵資料の燻蒸庫燻蒸処理を実施しました。

2) 収蔵庫棟増築の提案にかかる検討を行い、計画図面を作成しました。

3) 1950年前後の多磨全生園を撮影した6×6判サイズネガフィルム1,578点のスキャンニングによるデジタル化を実施しました。

4) 松丘保養園から寄贈された文書資料の一部214点のデジタル化、個人から借り受けたポジフィルム51点のデジタル化を実施しました。

(4) 調査研究機能関連業務

①ハンセン病に関連する調査研究

1) 各園の歴史資料調査

国立療養所 13 園の歴史的資料調査を計画し、実施しました。調査期間を 2 期に分け、第 I 期(平成 22～24 年の 3 年間) : ①「モノ、写真、動画、音声」②「建造物、史跡」、第 II 期(平成 25～27 年の 3 年間) : ③「文書、書籍」とし、学芸員が調査を担当することにしました。

5 月に全療協支部代表者会議で協力を要請し、6 月に各園と自治会の双方に調査依頼の文書を送付し、同調査に使用するリーフレットを発行しました。

・松丘保養園

9 月 28～30 日 プレ巡回展を開催し、資料現況概要調査を実施しました。

10 月 24 日～11 月 3 日 同園の資料のリストを作成しました。リスト作成は資料 1 点ずつに対し、写真撮影、タグ付け、採寸、計量、パソコン入力、梱包を一連の作業として行いました。リスト化が終了した資料数は 258 点でした。

2 月 17～19 日 松丘保養園を訪問し、資料調査の中間報告を園と入所者自治会に行うとともに、借用資料の返却、資料の受け取りなどを行いました。

・星塚敬愛園

10 月 5～7 日 プレ巡回展を開催し、資料現況概要調査を実施しました。

11 月 7～14 日 星塚敬愛園文化会館内資料室および会議室内の実物資料 240 点について実測・撮影等を行い、ヒアリングによる付加情報の収集を行いました。

・駿河療養所

12 月 9～10 日 文書資料移転にかかる状況調査を実施しました。

1 月 18～21 日 プレ巡回展を開催し、資料現況概要調査を実施しました。

2 月 21～25 日 「モノ、写真、動画、音声」「建造物、史跡」の資料調査を実施し、360 点までの実物資料の実測・撮影を行いました。

3 月 15～16 日 追加資料調査を実施し、153 点の実物資料の実測・撮影を行いました。

2 月分と合わせて 513 点が終了しました。

2) 海外におけるハンセン病関連資料の調査研究

・ノルウェーにおけるハンセン病関連アーカイブの調査研究

9 月 6～12 日 ノルウェー・ベンゲル市における、国立アーカイブス調査・研究交流、ベンゲル市アーカイブス調査・研究交流、ハンセン病博物館調査・研究交流、ベンゲル市内ハンセン病関連史跡の現地調査を行いました。

・世界ハンセン病フォーラム

11 月 23～29 日 韓国・ソウルで開催された世界ハンセン病フォーラムへ参加し、「歴史と記憶」をテーマとするセッションで当館の設立経緯や活動内容について紹介し、韓国のハンセン病事情についての情

報収集を行いました。フォーラム終了後に療養所である小鹿島を訪問しました。

3) 企画展・催事準備のための資料調査研究

- ・平成22年春季企画展「着物にみる療養所の暮らし」について、調査研究を行いました。
- ・秋季企画展「「全生病院」を歩く」準備のための資料調査を実施しました。
- ・「高山勝介作陶展」開催準備のための調査を行いました。

4) 平成23年度以降の企画展準備のための資料調査・収集活動

・春季企画展「かすかな光を求めて―療養所の中の盲人たち―」準備のため、下記療養所を訪れ、盲人会の方等の聞き取り調査、活動の記録、盲人会関係資料の調査を実施しました。

1月11～14日 松丘保養園、1月26～29日 菊池恵楓園、2月7～10日 大島青松園、2月14～19日 邑久光明園、長島愛生園、3月8～9日 駿河療養所

5) 中・長期にわたる継続的資料調査・研究活動

- ・入園者から聞き取り調査を実施しました。また、活動の様子を記録のため撮影や録画をしました。
- ・近世にらい患者が集住していた、ハンセン病関連史跡のフィールドワークを実施しました。

②博物館活動全般に関連する調査研究

1) 6月 岡山県立博物館、岡山県立美術館にて主に普及啓発活動方法の見学調査を実施しました。

2) 8月 東アジア教育文化学会主催「第6回学術シンポジウム」(会期:8月19～20日、於:聖トマス大学)において、金学芸員が、研究報告「歴史の記憶化と博物館―アウシュビッツ＝ビルケナウ国立博物館を中心に―」を発表しました。

3) 11月 韓国国立中央博物館、LEEUM三星美術館にて、展示手法について調査しました。

4) 12月 大阪人権博物館リニューアルにかかるヒアリング・企画展見学を行いました。

5) 1月 青森県立郷土館、ワ・ラッセにおいて主に展示技法を視察しました。

③調査研究の公開

1) 企画展「着物にみる療養所の暮らし」の調査研究の成果をまとめて、図録を発行しました。

2) 秋季企画展「「全生病院」を歩く」の図録を発行しました。

3) 「高山勝介作陶展」の図録を発行しました。

4) 国立ハンセン病資料館2010年度研究紀要を発行しました。

5) 国立ハンセン病資料館ブックレット3を発行しました。

(5) 情報センター機能関連業務

①情報提供・検索システム関連業務

各療養所機関誌のPDF化に伴う目次入力作業を行いました。各園機関誌PDF目次をFACILシステムに入力したことにより、図書検索OPACから目次検索が可能になりました。またFACILの増設と移設作業を実施しました。

②図書室(資料閲覧室)における情報提供、レファレンス

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開室日	25	26	26	26	26	22	25	23	21	23	22	25	290
新規資料受入数	124	135	83	137	26	121	155	44	80	140	135	51	1,231
レファレンス	1	1	3	14	25	15	29	10	18	12	19	19	166
利用者数	211	237	197	238	389	190	368	324	229	159	244	187	2,973
資料出納数	13	4	7	14	13	11	2	5	8	11	11	10	109
資料複写対応件数	20	24	33	40	60	24	225	223	142	5	37	18	851
新規登録者	1	0	0	1	8	4	2	2	3	0	1	1	23
外部貸出冊数	-	-	-	12	30	20	9	13	23	7	11	30	155

③その他の実績・事業進行状況

- 1)平成22年3月分～平成23年2月分新聞記事スクラップを図書室にて公開しました。
- 2)資料館への寄贈図書資料の登録及び整理、配架作業を行いました。
- 3)6月より図書資料の貸出を行いました。その準備として、貸出す資料の確認作業、必要消耗品・備品の検討、館外貸出票・貸出マニュアルの作成を実施しました。
- 4)雑誌データ(チラシ等を含む)請求番号の修正、請求ラベルの貼付作業、それに伴う書架整理を行いました。
- 5)新聞類の新たな分類方法による再分類、配置換え作業を行いました。
- 6)データベース「医中誌Web」を8月末日をもって解約し、9月1日から皓星社「雑誌記事索引集成データベース」(明治から現代まで、すべての都道府県で出版された雑誌を一括検索できるデータベース)と契約しました。
- 7)レファレンスに必要なハンセン病に関する研究者の文献検索資料集めを行いました。
- 8)図書室に、重要文献である国立療養所13園発行の年報が揃っていないので、各園に年報の貸借依頼をし、借用した未収集年報について、PDF化及びコピー製本を行い収集と閲覧に提供する「国立療養所13園の年報のPDF化」事業を第6回運営委員会で決定しました。長島愛生園から貸借した年報のPDF化・複製作成を発注し制作しました。
- 9)製本候補の確認整理を行い、機関誌、感想文等の製本を発注しました(80冊分)。
- 10)マイクロ化資料候補の選別を行い、5,000枚のマイクロフィルム化を実施しました。またマイクロ化済み資料保存のためアーカイブ容器を購入し、閲覧用のマイクロリーダーを購入しました。
- 11)松丘保養園からの点字本を活字への翻訳を行いました。
- 12)購入古書の燻蒸を実施しました。

④印刷物(出版物)による情報提供

1)資料館だより

資料館の機関誌「資料館だより」第67号(4月1日刊)、68号(7月1日刊)、69号(10月1日刊)、70号(1月1日刊)を各1万部発行し、関係機関へ配布しました。

2)国立ハンセン病資料館年報

平成 21 年度国立ハンセン病資料館年報(第 3 号)を 8 月 31 日に発行しました。

3) 来館者用配付資料等

資料館パンフレットの修正作業を行い、12 月 28 日に日本語版パンフレットを改訂発行しました。

4) 研究紀要など

- ・春季企画展「着物にみる療養所の暮らし」図録を発刊し、配布しました。
- ・秋季企画展「「全生病院」を歩く」の図録を発行し、配布しました。
- ・国立ハンセン病資料館ブックレット 2 ハンセン病関連法令等資料集 を関係者に配布しました。
- ・企画展「高山勝介作陶展」の図録、絵葉書を制作し、企画展に併せて配布しました。
- ・国立ハンセン病資料館ブックレット 3 を発刊しました。

⑤資料館ホームページ、インターネットを通じた情報の受発信

- 1) 新聞・雑誌記事データとして当館ホームページに試験公開されている図書館資料検索 OPAC に平成 22 年 3 月～平成 23 年 2 月分データを追加しました。また、図書目録、新聞・雑誌記事目録検索をよりわかりやすく改善しました。
- 2) ホームページ上にイベント(映画上映会等)、企画展、ギャラリー展、平成 23 年度送迎バスサービス対象校の募集、臨時休館等の新着情報を随時掲載しました。
- 3) ホームページにキッズコーナーを開設しました。
- 4) ダウンロード用日本語版パンフレットを更新しました。
- 5) 長島愛生園編集「らい文献目録社会編」(昭和 32 年刊)園所蔵資料の Web 公開の準備をしました。

(6) 管理・サービス機能関連業務

①管理・運営

1) 臨時休館、臨時開館

9 月 10～12 日 収蔵庫燻蒸のため臨時休館しました。

2) ハンセン病学習の発表の場としての活用を図る事業

研修室、映像ホール、ギャラリー合計 41 件の貸出を行いました。参加者人数は 5,237 人でした。

3) インフォメーション業務、資料頒布サービス

(単位：人)

月/年度	平成 21 年度			平成 22 年度		
	団体	個人	合計	団体	個人	合計
4 月	695	1,865	2,560	591	2,138	2,729
5 月	656	939	1,595	772	1,037	1,809
6 月	1,005	682	1,687	1,034	1,204	2,238
7 月	918	1,034	1,952	734	1,049	1,783
8 月	429	1,098	1,542	328	1,230	1,558
9 月	545	1,121	1,666	225	762	987
10 月	661	1,351	2,012	1,142	1,330	2,472
11 月	1,273	1,362	2,635	1,023	1,536	2,559
12 月	691	877	1,568	650	1,165	1,815
1 月	375	787	1,162	551	649	1,200
2 月	729	1,089	1,818	742	1,241	1,983

3月	562	1,122	1,684	544	838	1,382
合計	8,231	13,650	21,881	8,336	14,179	22,515

(7) 企画調整機能関連業務

① 連絡調整活動

資料利用相互協力を結びました(ハンセン病研究センター・国立療養所多磨全生園 所蔵図書利用)。また、関係機関(日本医学図書館協会、日本患者図書館協会、日本博物館協会、東京都博物館協議会、三多摩公立博物館連絡協議会、ハンセン病学会)へ入会しました。日本医学図書館協会に統計資料や原稿を提出しました。上記関係機関等の会合や研修へ参加しました(7回)。

② 広報・宣伝活動

1) 資料館の広報(報道)

6月26日	読売新聞	企画展「着物にみる療養所の暮らし」
10月28日	毎日新聞	細川厚生労働大臣資料館訪問
11月6日	NHK 企画展	「講座とフィールドワーク」
12月19日	NHK	企画展「「全生(ぜんせい)病院」を歩く」

*他5件

2) 資料館の広報(広告)

事業の案内を行い、その周知をはかるため印刷物の発行ならびに各種報道機関、近隣自治体の広報誌、社会福祉協議会広報誌等への広報依頼を行いました。また最寄りの交通機関に看板等を設置し近隣への周知をはかりました。

(8) 委員会事務局業務

① 運営委員会関連業務

資料館の運営方針、事業計画、学術事項等に関する重要事項について、専門的な見地から議論、検討する運営委員会の事務局業務を行いました。委員は館長、語り部、全療協、学芸課長、厚労省担当者等です。運営委員の名簿は以下の通りです。(五十音順)

委員長	成田 稔	(国立ハンセン病資料館館長)
委員	儀同 政一	(国立感染症研究所ハンセン病研究センター)
〃	黒尾 和久	(国立ハンセン病資料館学芸課長)
〃	神 美知宏	(全国ハンセン病療養所入所者協議会事務局長)※6月1日会長に就任
〃	佐川 修	(多磨全生園入所者自治会長)
〃	比嘉 敏充	(厚生労働省健康局疾病対策課課長補佐)
〃	平澤 保治	(前多磨全生園入所者自治会長)

4月から3月にかけて11回、委員会を開催しました。

② ハンセン病資料館等運営企画検討会関連業務

5月21日、厚労省の主催した標記第6回検討会用資料を作成するとともに、同検討会に出席し説明を行いました。

(9) ハンセン病対策事業

① シンポジウムの開催

- 1) 5月28～29日に看護師・介護士を対象とした「第22回コ・メディカル学術集会」を鹿児島市において開催し参加者は216名でした。
- 2) 6月15日に一般を対象とした「ハンセン病を正しく理解するための社会啓発講座」を徳島市において開催し、参加者は約400名でした。
- 3) 8月9～13日に医療関係者・医大生等を対象とした「第33回ハンセン病医学夏期大学講座」を東村山市多磨全生園にて開催し、41名が受講しました。
- 4) 1月15日に青森市において「第10回ハンセン病問題に関するシンポジウム」
(主催：厚生労働省、(財)日本科学技術振興財団、HIV人権ネットワーク沖縄、青森県、青森市)を開催しました。本シンポジウムはハンセン病啓発をテーマとして一般市民を対象として開催されているもので、今回の参加者数は600名でした。

② 啓発資料の作成

- 1) ハンセン病に対する正しい知識の普及を図るための啓発用パンフレット(一般向け、子ども向け2種類)を印刷し、ハンセン病療養所、都道府県関係部局他関係機関に配布しました。
- 2) 全国のハンセン病療養所入所者、退所者、及び関係者等から詩、短歌、俳句、川柳、随筆等の文芸作品を募集し、文芸作品集「ふれあい文芸 23年版」として発行しました。この作品集を全国の図書館や関係機関等に配布しました。

3. 青森県立三沢航空科学館の運営(青森県受託事業)

(1) 展示物の点検・補修・改善

展示装置の保守点検及び修理を年6回実施しました。3月14～15日と3月23～24日には東日本大震災をうけて、急遽、展示装置の点検と修理を行いました。

(2) イベントの開催など

7月17日～8月29日に「おばけの館でふしぎ体験」を実施しました。

III. 他館に対する活動支援事業

1. 教育文化施設に対する企画・開発・保守支援

(1) 鳥取市歴史博物館常設展示装置点検業務((財)鳥取市文化財団受託業務)

同館の常設展示装置の定期点検と映像系展示の保守点検を5回行いました。

(2) 平成22年度環境測定分析環境測定分析統一精度管理調査 情報システムの運用業務

(財)日本環境衛生センター受託事業)

(財)日本環境衛生センターが実施する平成22年度環境測定分析統一精度管理調査における情報収集、公開のためのコンピュータシステムの運用業務を請け負い、情報システム開発部と協力で開発した報告書回収機能で平成22年度分析結果報告(10種類)の受付・回収を実施しました。

(3)川崎市青少年科学館プラネタリウム開発業務(川崎市受託業務)

川崎市が実施する青少年科学館のプラネタリウム開発業務を、(有)太平技研と共同して受託し、実施しました。今年度は以下の業務を実施しました。

- ・要素技術機器の試作、実験検証(新型恒星原版等)
- ・投影システム等の実施設計
- ・システム及び投影ソフトウェアの検証と選定
- ・音響システム実施設計、機器実験検証

(4)日立シビックセンター科学館天球劇場投影システム設置業務(日立市受託業務)

日立市より「日立シビックセンター天球劇場」のプラネタリウムシステム更新を受託し3月7日に引渡完了しました。本システムには光学システムとして最新鋭のMEGASTER II-A(ES)、デジタルシステムとして最新バージョンのUNIVEW Ver. 1.4Jが搭載されました。

(5)山梨県立科学館プラネタリウム設備保守点検業務((財)山梨県青少年協議会受託事業)

(財)山梨県立青少年協会より受託した、「山梨県立科学館プラネタリウム設備保守点検業務」について、平成22年度の保守点検業務を完了しました。

(6)リアルタイムスペースエンジン「UNIVIEW」ライセンス販売業務

(コニカミノルタプラネタリウム(株)受託業務)

名古屋市科学館向けにユニビュープロデューサーを納品しました。本ソフトウェアは名古屋市科学館プラネタリウムにて投影される番組及び素材映像制作に活用される予定です。

(7)(仮称)岡崎市子ども科学館基本計画策定業務(岡崎市受託事業)

岡崎市教育委員会が開設を予定している岡崎市子ども科学館の基本計画業務として、建築計画・コンテンツ計画・運営計画・事業計画を作成しました。

(8)大成風のミュージアムリニューアル(大成高校受託事業)

大成高校・風のミュージアムは、平成19年度から平成21年度の3か年で段階的に「風」の展示から「地球温暖化」の展示室に改装しました。今期は、展示保守業務を実施しました。

(9)(仮称)小松市子ども科学体験館基本構想策定業務(小松市受託事業)

小松市まちデザイン課がJR小松駅東に開設を予定している子ども科学体験館(仮称)の基本構想を検討しました。

(10)モバイルシンラドーム(可搬型立体ドームシアターの貸し出し)

(財)日本宝くじ協会の助成を受けて製作した可搬型立体ドームシアターシステムを平成23年3月~5月の期間において、名古屋市科学館のリニューアルオープン特別展示として貸出運用中です。上映コンテンツは「深海の不思議((財)日本科学技術振興財団)」です。

(11) 実験プログラム開発・実演業務(三菱電機(株)受託事業)

三菱電機(株)より、同社工場のイベントで行う実験ショーについてプログラムのシナリオ作成および実験装置の製作、実演・実演支援を受注し、下記のとおり実施しました。

業務実施期間：5月31日～8月6日(実演支援：8月6日)

9月17日～10月30日(実演：10月30日)

IV. 科学技術系人材の育成事業

科学技術体験イベント、科学技術体験合宿プログラム、科学オリンピックなど、科学技術への興味関心を引起すレベルから専門家を目指すレベルまで、広範な活動を通して科学技術系人材の育成事業を推進しました。今年度実施した主な事業は次のとおりです。

1. 科学技術体験イベントの開催

(1) 「青少年のための科学の祭典」の開催(独)科学技術振興機構、電気事業連合会等協賛事業)

科学技術振興機構の全国規模ネットワーク支援および電気事業連合会、中外製薬の協賛により全国大会を実施するとともに、財団が開催ノウハウの提供・指導や資金的な分担を行っている自主大会が全国で118(含全国大会)大会実施されました。

<全国大会>	7月30日～8月1日	科学技術館(東京都)	20,090人
<自主大会>	参加者	合計	352,696人
北海道			40大会
東北	青森・宮城・秋田・山形		4大会
関東甲信越	茨城・千葉・神奈川・東京・山梨・長野・新潟		24大会
東海・中部	静岡・愛知・岐阜・三重・富山・石川・福井		15大会
近畿	滋賀・京都・大阪・奈良・和歌山・兵庫		14大会
北陸・中国	島根・岡山・広島・山口		7大会
四国	徳島・香川・愛媛・高知		6大会
九州	長崎・熊本・大分・鹿児島		7大会

(2) キッズ・フロンティア・ワークショップ業務((財)新技術開発財団受託事業)

第41回市村アイデア賞の応募促進に関する広報活動を実施するとともに、11月22日にはサイエンスホールにおいて受賞者、保護者、引率の先生を招き、同賞の表彰式を開催しました。これに合わせて、11月20日～12月5日の間、2階G棟サイエンスギャラリーにおいて、科学技術館館長賞を含む同賞の入選作品(12点)の展示を行いました。また、12月18・19日には福井県児童科学館においてコピー機を題材としたワークショップ「キッズ・フロンティア・ワークショップ」を新技術開発財団と共催で開催しました。な

お、3月12・13日に科学技術館において同様のワークショップを開催する予定でしたが、前日に発生した東日本大震災の影響により中止としました。

(3)横須賀市浦賀ドックサイエンスイベント(横須賀市受託事業)

浦賀ドックサイエンスイベントの企画及び運営実施業務を受託し、8月21・22日に住友重機械工業(株)浦賀工場内の浦賀ドックにて、サイエンスショーとワークショップを実施しました。

(4)沖縄県子供科学力養成塾事業(沖縄県受託事業)

①こども塾の実施

施設を活用した子供向けの科学プログラム開発は以下の通りです。

1)宇宙航空研究開発機構・沖縄宇宙通信所(10月10・11日) 参加人数：533名

・「パラボラのふしぎ実験」実験ショー形式

・「ロケットを作って飛ばそう」工作教室

2)情報通信研究機構・沖縄亜熱帯計測技術センター(11月21・22日) 参加人数：533名

・「電波ではかる～波の性質」実験ショー形式

・「雲の正体を知ろう」実験教室

・「風速計・風向計をつくってはかろう」工作教室

3)出前教室

・竹富町立黒島小中学校(10月26日) 「空気の不思議実験」 参加人数：15名

・石垣市立野底小学校(10月27日) 「空気の不思議実験」 参加人数：42名

・宮古市立伊良部中学校(11月18日) 「空気で大実験」(中学生版) 参加人数：83名

・宮古市立佐良浜中学校(11月19日) 「空気で大実験」(中学生版) 参加人数：80名

・読谷村立古堅小学校(2月14日) 「空気の不思議実験」 参加人数：215名

②おとな塾の実施

・米村でんじろう先生の科学教育セミナー(7月17日) 会場：沖縄こどもの国 参加者：77名

・プログラムがト基礎講座①(12月19日) 会場：沖縄こどもの国 参加者：21名

・プログラムがト基礎講座②(1月23日) 会場：沖縄こどもの国 参加者：19名

・プログラムがト基礎講座③(2月13日) 会場：沖縄こどもの国 参加者：14名

・プログラムがト基礎講座④(2月27日) 会場：沖縄こどもの国 参加者：14名

・プログラムがト基礎講座 in 児童館(1月25日) 会場：北中城村島袋児童館 参加者：35名

・プログラムがト基礎講座 in 琉球大学(2月12日) 会場：琉球大学産学官連携推進機構 参加者：9名

・プログラムがト基礎講座 in 学童保育(2月28日) 会場：沖縄県総合福祉センター 参加者：19名

③科学イベントの実施

・こどもサイエンスフェスタ沖縄一夏(7月17・18日) 会場：沖縄こどもの国

・こどもサイエンスフェスタ沖縄一夏(7月19日) 会場：今帰仁村コミュニティセンター

7月17～19日 参加人数総数：4,666名

・こどもサイエンスフェスタ沖縄一春(3月5・6日) 会場：沖縄こどもの国 参加人数：1,356名
以上の実施を踏まえ、平成23年度へ向けていくつかの課題が挙げられました。全県的な科学力の養成を目指すためには、より多くの場所(離島含む)で多くの人が関わり科学に親しむ環境を継続的に整える必要があるため、学校をはじめ、児童館や学童など日常生活の中で子供たちが科学に親しめるよう教育・保育現場と連携していくこととしました。

2. 科学技術体験合宿プログラムの開催

(1)サイエンスキャンプ2010の開催(独)科学技術振興機構受託事業

次代を担う高校生、高等専門学校生(1~3年)に、科学技術を身近なものと感じてもらうため、科学技術体験合宿プログラム「サイエンスキャンプ2010」を夏休み、冬休み及び春休みに開催しました。

広報活動として募集要項、チラシ等を作成し、全国の高等学校及び高等専門学校へ送付すると共に、ホームページ等での広報を行いました。

その結果、大学、公的研究機関、民間企業の71会場で科学技術体験合宿が開催され、2,660名の応募者があり、選考の結果、929名が参加して最先端の科学技術の現場を体験しました。

◆サマー・サイエンスキャンプ

(会場数 57 応募者数 1,607名 参加者数 737名)

大学 16会場

公的研究機関 37会場

民間企業 4会場

◆ウインター・サイエンスキャンプ

(会場数 10 応募者数 461名 参加者数 156名)

大学 8会場

公的研究機関 2会場

◆スプリング・サイエンスキャンプ(※)

(会場数 4 応募者数 592名 参加者数 36名)

大学 3会場

民間企業 1会場

※当初、12会場、153名の参加者で実施される予定でしたが、東日本大震災の発生により8会場(大学4会場、民間企業4会場)が中止となりました。

3. 科学オリンピック国内大会・国際大会

(1) 生物チャレンジ2010の開催、第21回国際生物学オリンピックへの日本代表派遣事業

(独)科学技術振興機構支援事業

①第21回国際生物学オリンピック(IBO2010)日本代表の派遣

韓国/昌原市で2010年7月11日～18日に開催された、第21回国際生物学オリンピックに生物チャレンジ2009から選抜された4名の日本代表が参加しました。この大会には世界58カ国・地域から233名の生徒の参加があり、日本代表は2009年の日本大会に続き、金メダル1名、銀メダル3名という好成績をあげることができました。

【第21回国際生物学オリンピック日本代表と成績】

金メダル	栗原 沙織	北海道札幌西高等学校(北海道)	2年
銀メダル	坂本 莉沙	渋谷教育学園渋谷高等学校(東京都)	3年
銀メダル	三上 智之	ラ・サール高等学校(鹿児島県)	2年
銀メダル	水口 智仁	開成高等学校(東京都)	3年

②全国生物学コンテスト「生物チャレンジ2010」の開催

2011年7月に台湾で開催される「第22回国際生物学オリンピック(IBO2011)」に派遣する日本代表選考を兼ねた全国生物学コンテスト「生物チャレンジ2010」の第一次試験を、2010年7月18日に全国47都道府県83カ所(前年は81カ所)の大学、高等学校を会場に実施しました。「生物チャレンジ2010」には2,534名(前年2,693名)からの参加申し込みがありました。

第一次試験の結果から選抜された成績優秀者78名は、筑波大学を会場として8月19日～22日の3泊4日の合宿形式によって開催した第二次試験に参加しました。

第一次、第二次試験の成績により高校2年生以下の15名が日本代表候補者として選抜され、12月25日～27日の日程で東京大学を会場に、最先端の生物学に触れる機会として新たに計画した冬期特別セミナーに参加しました。

最終選考となる代表選抜試験は、震災への対応から当初の2011年3月20日の計画を3月26日に日程変更し、試験会場も参加する日本代表候補者の移動を極力抑えるために東京、北茨城、神戸の3カ所で実施しました。その結果をもとに、国際生物学オリンピック日本委員会による日本代表選考会議を経て第22回国際生物学オリンピック日本代表4名と次点者2名が決定しました。6名は、国際大会の課題に向けた特別教育合宿などに参加したのち台湾大会に臨みます。

【第22回国際生物学オリンピック日本代表及び次点者(氏名50音順)】

〔日本代表〕

大塚 祐太	千葉県立船橋高等学校(千葉県)	3年
久米 秀明	筑波大学附属駒場高等学校(東京都)	3年
松田 洋樹	筑波大学附属駒場高等学校(東京都)	3年
三上 智之	ラ・サール高等学校(鹿児島県)	3年

[次点者]

奥村 洋介	和歌山県立向陽高等学校(和歌山県)	3年
野田 夏実	桜蔭高等学校(東京都)	2年

(2) 物理チャレンジ2010の開催、第41回国際物理オリンピックへの日本代表派遣事業

(独) 科学技術振興機構支援事業

③ 第41回国際物理オリンピック(IPh02010)日本代表の参加派遣

クロアチア/ザグレブ市で2010年7月17日～25日に開催された第41回国際物理オリンピックに、第5回全国物理コンテスト物理チャレンジ2009から選抜された日本代表5名が参加しました。この大会には世界79カ国・地域から370名の生徒の参加があり、日本代表は銀メダル1名、銅メダル3名、入賞1名という好成績を収めることができました。

【第41回国際物理オリンピック日本代表と成績】

銀メダル	濱崎 立資	栄光学園高等学校(神奈川県)	3年
銅メダル	益田 稔介	大阪星光学院高等学校(大阪府)	3年
銅メダル	真野 絢子	南山高等学校女子部(愛知県)	3年
銅メダル	山村 篤志	灘高等学校(兵庫県)	2年
入賞	澤 優維	灘高等学校(兵庫県)	3年

④ 第6回全国物理コンテスト「物理チャレンジ2010」の開催

2011年7月にタイで開催される「第42回国際物理オリンピック(IPh02011)」に派遣する日本代表選考を兼ねた、第6回全国物理コンテスト「物理チャレンジ2010」を開催しました。

全国から999名(前年897名)の参加申し込みがあり、2010年6月20日に高等学校・大学等67会場で実施した第1チャレンジ理論問題コンテストには、842名(前年809名)が受験しました。第1チャレンジ実験課題レポートは、5月31日の締切りまでに836名(前年794名)から提出がありました。理論問題コンテストと実験課題レポートの総合評価から第2チャレンジに進む79名を選抜しました。

第2チャレンジは、2010年8月1日～4日に3泊4日の合宿形式で岡山県青少年教育センター(岡山県備前市)にて開催し、ここでの成績優秀者のうちIPh02011への参加資格を有する高校2年生以下の生徒13名を日本代表候補者として選出しました。

日本代表候補に対しては、インターネットを利用した「理論問題通信添削」、冬休みの「実験実習合宿研修」等の教育研修を行い、さらに春休みに合宿形式の「最終選考試験」を実施しました。それら教育研修と最終選考試験の成績を総合的に判定評価して5名の日本代表を決定しました。

【第42回国際物理オリンピック日本代表(氏名50音順)】

榎 優一	灘高等学校(兵庫県)	1年
笠浦 一海	開成高等学校(東京都)	2年
川畑 幸平	灘高等学校(兵庫県)	2年
佐藤 遼太郎	秀光中等教育学校(宮城県)	6年

(3) 第42回国際化学オリンピックの開催(独)科学技術振興機構支援事業)

2010年7月に第42回国際化学オリンピック大会が日本で開催されることを受けて、化学にかかわる産・官・学の連携のもとに実行母体として「化学オリンピック日本委員会」(委員長:野依良治)が組織され、当財団は主催者構成メンバーとして活動しました。

国際化学オリンピック大会は、代表選手参加国68ヶ国・地域、オブザーバー参加国4ヶ国、代表選手267名、引率者237名が参加し、7月19~28日に東京で開催されました。代表選手と引率者は、大会期間中の互いの連絡を避けるため、それぞれ国立オリンピック記念青少年総合センター、国際能力開発支援センターに宿泊しました。2日目の開会式には秋篠宮両殿下のご臨席を賜り、過去の大会よりも厳粛さの面で際立った式典となりました。代表選手団の日程は下記のとおりですが、日本の代表選手は、過去8回参加のうち最高の成績を収め、2名が金メダル、2名が銀メダルに輝きました。

【第42回国際化学オリンピック日本代表成績】

金メダル	遠藤 健一	栄光学園高等学校(神奈川県)	高校3年生
金メダル	齊藤 颯	灘高等学校(兵庫県)	高校2年生
銀メダル	浦谷 浩輝	滋賀県立膳所高等学校(滋賀県)	高校2年生
銀メダル	片岡 憲吾	筑波大学附属駒場高等学校(東京都)	高校3年生

<大会日程(代表選手)>

7月19日(月)参加登録

7月20日(火)開会式(国立オリンピック記念青少年総合センター)、
ウエルカムパーティー、エクスカーション(浅草)

7月21日(水)エクスカーション(鎌倉)

7月22日(木)実験試験(早稲田大学)

7月23日(金)エクスカーション(目黒雅叙園、国立科学博物館)

7月24日(土)筆記試験(東京大学)、再会の夕べ

7月25日(日)レクリエーション(講道館見学、スポーツ大会)

7月26日(月)エクスカーション(日光)

7月27日(火)エクスカーション、表彰式・閉会式(早稲田大学大熊講堂)、
フェアウエルパーティー

7月28日(水)選手団解散

財務委員会を10月4日、12月24日、運営幹事会を10月19日に開催し、上期収支実績の確認及び下期見込みの検討を行いました。剰余金を次世代育成活動資金に組み入れ、その使途として開催国への支援、代表候補への強化訓練支援、OB・OGへの活動支援、国際標準テキストの作成、日本大会ホームページの維持管理、国際運営委員会参加への旅費支援等の検討を行いました。

英文大会報告書及び別冊写真集を作成し、12月9日～12日に開催された国際運営委員会にて日本大会の開催結果報告を行いました。また、12月1日に日本化学連合主催で開催された「国際化学年カウントダウン記念シンポジウム」にて国際化学オリンピックの活動紹介を行いました。

運営幹事会を3月16日に開催し、2010年度の実績見込みについて検討するとともに化学オリンピック日本委員会の精算手続きの確認ならびに組織委員会への上程議題内容について検討を行いました。

化学オリンピック日本委員会第8回組織委員会を3月24日に開催し、大会報告を行い総括するとともに次世代育成活動資金の有効活用が決議されました。

(4) 日本科学オリンピック推進委員会事務局業務

国を挙げて科学オリンピックを通して世界に挑戦する子どもたちを応援し、各オリンピックの活動を支援していくことを目的に「日本科学オリンピック推進委員会(JSOC)」(会長:江崎玲於奈)が組織され、当財団はこの委員会の運営事務局を担当しています。

各科学オリンピック日本委員会と産官学とが連携をとりつつ参加者の拡大や認知度の向上を目指し、ホームページによる広報活動、科学技術振興機構と共同しての普及イベント等を行いました。

8月18日に東京大学安田講堂にて開催した平成22年度「国際科学オリンピックシンポジウム」では、JSOC理事であり化学オリンピック日本委員会委員長の野依良治理化学研究所理事長が基調講演を行った後、歴代5名の科学オリンピック国際大会メダリストが出席してパネルディスカッションを開催したほか、東大学生サークルによるサイエンスショー等を実施しました。参加者は、夏休み中の中学・高校生を中心に、保護者、教育関係者等、約650名を集めました。

なお、2月23日に各科学オリンピック委員会代表により構成されるJSOC運営協議会を開催し、活動状況等を相互に報告し、現状の課題や方向性等について共有と討議を行いました。その結果を受けて3月16日にJSOC理事会を開催する計画でしたが、震災により開催は延期となっており、あらためて平成23年度上期中の開催を目途に準備を進めています。

V. 科学技術の普及啓発事業

優れた科学技術映像を選奨するコンクールと優秀作品のテレビ放映や全国の科学館での巡回上映を行い、映像を通じた科学技術の普及啓発事業を推進します。また、放射線に関する理解増進活動等を推進し、環境やエネルギーに係る科学技術の普及啓発をはかりました。

1. 科学技術映像祭の開催と優秀作品の上映

(1) 第51回科学技術映像祭の開催(つくば科学万博記念財団他との共催事業)

科学技術映像祭は、優れた科学技術に関する映像を選奨し、科学技術の普及と向上を図ることを目的とするもので、当財団と(財)つくば科学万博記念財団、(社)映像文化製作者連盟の3者共催により実施しまし

た。また、今回で50周年を迎えるにあたり、目的に優れた科学技術映像の普及・活用による科学技術教養の向上を加えるとともに表彰部門を見直し、「自然・暮らし部門」・「研究開発部門」「科学技術教養部門」の3部門といたしました。応募された52作品のうち下記の優秀作品11本を選奨しました。

4月16日に科学技術館サイエンスホールで表彰式を開催すると共に、16・17日の両日、入選作品の上映会を行いました。また、全国13ヵ所で入選作品の上映会を行いました。年度後半からは、第52回科学技術映像祭に向け準備を進めました。

◆内閣総理大臣賞(1作品)

自然・暮らし部門

・テレビ NHK スペシャル「MEGAQUAKE 大地震」第2回 KOBE 15秒の真実～そのとき地下で何が～

企画・製作 日本放送協会 大阪放送局

◆文部科学大臣賞(3作品)

自然・暮らし部門 1作品

研究開発部門 1作品

科学技術教養部門 1作品

◆部門優秀賞(6作品)

自然・暮らし部門 3作品

研究開発部門 2作品

科学技術教養部門 1作品

◆特別奨励賞(1作品)

科学技術教養部門 1作品

2. 放射線に関する理解増進活動

(1)原子力・エネルギーに関する学習用機器(簡易放射線測定器)の貸出業務 (文部科学省受託事業)

本事業は、文部科学省研究開発局原子力課立地地域対策室から受託した業務です。小・中・高等学校等の児童生徒、教職員を対象に簡易放射線測定器「はかるくん」や教材セット等を無料で貸し出し、それをを用いた身の回りの放射線測定等の実習・実験を通して、放射線の存在を身近に実感してもらうことにより、原子力を含めたエネルギーに関する知識の普及と理解増進を図るものです。

平成12年度から18年度まで受託していた自然環境・放射線Web事業及び平成19年度から昨年度までの本事業における簡易放射線測定器「はかるくん」の利用実績や、先生方のネットワークを活用し、年間貸出し目標を27,000台以上に設定しました。平成22年度(H22.4.1～H23.3.31)の実績値は、新学習指導要領への対応に向けて中学校での「放射線」に関する授業が1月から3月にシフトしたことや、測定器の老朽化などにより貸出台数が伸び悩み、20,732台にとどまりました。また、3月11日の東日本大震災以降の測定器の貸出については、貸出対象を団体に限り、貸出台数も5台までの制限を設け、より多くのユーザへの貸出できるように努めました。

さらに、簡易放射線測定器「はかるくん」を用いた周知活動を実施し、放射線に関する基礎知識と「はかるくん」の貸出し制度の普及を行いました。

また、本事業では、事業評価委員会及び教材検討・研究作品審査委員会を組織し、事業内容評価及び教材検討・実践研究作品審査を行い、報告書を取りまとめました。

【事業評価委員会】

委員長	中村 尚司	東北大学名誉教授
委員	碧海 酉癸	消費生活アドバイザー
委員	井上 チイ子	社団・女性職能集団 WARP 理事長
委員	西原 英晃	京都大学名誉教授
ワグダーハ	池川 和彦	文部科学省 研究開発局原子力課立地地域対策室長
ワグダーハ	草野 雅史	文部科学省 研究開発局原子力課立地地域対策室 企画係

【教材検討・研究作品審査委員会】

委員長	飯本 武志	東京大学環境安全本部准教授
委員	東嶋 和子	科学ジャーナリスト
委員	林 四郎	北区立滝野川小学校 校長(元 全国小学校理科研究協議会会長)
委員	瀬田 栄司	葛飾区立亀有中学校 校長(元 全国中学校理科教育研究会会長)
委員	山本 日出雄	日本理化学協会事務局長
ワグダーハ	池川 和彦	文部科学省 研究開発局原子力課立地地域対策室長
ワグダーハ	草野 雅史	文部科学省 研究開発局原子力課立地地域対策室 企画係

VI. 科学技術の振興に関する調査研究事業

科学館、博物館等の来館者調査や科学技術リテラシー調査など、科学技術の振興に関する各種調査研究を実施し、科学技術振興に効果的な手法、活動についての方策提言を行いました。

1. 科学技術に関する関心・理解度調査

(1) 事業評価と評価手法の確立・体系化

① 「科学館の効果を測定するためのデータの収集・分析手法に関する実践的調査研究」

科学館・博物館の展示や教育活動の効果を測定する手法を確立するための調査のケーススタディーとして、平成22年8月16日(月)～22(日)に来館者調査を実施しました。

調査件数：子ども 598 件

大人 601 件

科学技術館来館者調査の結果について科学技術館利用回数でクロス集計を試みたところ、いわゆるリピ

ーターになりうる要因として、「新しい科学技術に触れることができた」、「学校では学べない科学技術のおもしろさに出会えた」など学習内容の満足度が関連していることが示唆されました。本研究成果について、平成23年6月に開催される日本ミュージアムマネジメント学会16回大会にて発表する予定です。

②「青少年のための科学の祭典」

来館者調査票を立案し、青少年のための科学の祭典の来場者、出展者、研修会参加者の意識調査を行いました。

	大人	子ども	出展者	大会別合計
全国大会	398	674	87	1159
鹿児島大会	-	-	27	27
八戸大会	58	96	32	186
福井大会	79	89	45	213
倉敷大会	167	172	81	420
対象者別合計	702	1031	272	2005

	申込者	出展者	合計
全国大会研修会	39	54	93

調査の結果から、祭典来場者、出展者、研修会参加者とも、知識の獲得、満足度等昨年と同じく非常に高く、祭典が科学技術理解増進に大きく寄与していることが示唆されました。一方、これも昨年と同じく、出展者による説明の時間の取り方等にまだ改善すべき点が見られました。

調査結果について、祭典関係者の今後の祭典の改善に役立ててもらうため祭典情報交流サイトにアップしました。

③理科を教える小学校教員に向けた科学技術リテラシーのテキスト・情報の編集に係る調査

昨年度実施しました「小学校教員の科学技術リテラシーの修得・リフレッシュの実態把握調査」をさらに発展させるべく、「科学の智」プロジェクトで作成された報告書を学校の先生方に活用していただくために、小学校教員の方にお集まりいただいて会議を開催し、現在、改善すべきポイントを指摘していただきました。

④科学技術館科学技術理解増進活動基礎調査」等報告書の配布

平成21年度実施した学芸活動について「科学技術理解増進活動基礎調査」「科学技術館学芸活動紀要」として報告書を取りまとめ、財団を支援していただいている産業界、官公庁、科学館・博物館、JST、国立教育政策研究所等関係各所に配布しました。

(2) 事業評価と評価手法の発表

①シンポジウム「社会とつながる科学教育」での発表

国立科学博物館で11月23日に開催されたシンポジウム「社会とつながる科学教育 ～博物館における科学リテラシー涵養活動の体系と人材育成～」において、国立科学博物館と共同して実施した教育ワークショップの開発について「成人を対象とした科学系博物館における科学リテラシー涵養プロ

グラムの試み『あれもこれもカガクヘンカー化学でつながる身近な生活ー』として発表を行いました。

②日本ミュージアムマネジメント学会における発表

3月5日(土)に科学技術館で開催された日本ミュージアムマネジメント学会実践部門研究部会にて情報システム開発部小林主任が「科学技術館における教育プログラムの効果測定手法に関する調査研究事例について」と題して、平成21年度に実施した展示評価並びに平成22年度に実施した「お家で復習」について発表しました。

③「科学館における効果的な環境・エネルギー教育プログラムの開発に関する調査研究」

本研究を進めるにあたり研究助成をいただきました財団法人新技術振興渡辺記念会の研究報告会にて、研究結果の概要を報告しました。また研究成果について「科学館における教育プログラムの評価手法に関する一考察」としてとりまとめ、日本ミュージアムマネジメント学会第15回大会(平成22年6月)において発表を行いました。本研究結果は今後の学芸活動に反映していく予定です。

④「日本科学教育学会第34回年会における研究発表

日本科学教育学会第34回年会広島大会(9月11・12)において『「青少年のための科学の祭典」の効果測定』と題して研究発表を行い、充実した内容であるとの評価をうけました。また、国立科学博物館、名古屋市科学館と共同で実施したワークショップ開発について『科学系博物館における科学リテラシー涵養を目指した学習プログラム事例「あれもこれもカガクヘンカー化学でつながる身近な生活ー』』と題して研究発表を行いました。

(3) 事業評価と評価手法についての受賞

①日本ミュージアムマネジメント学会賞受賞

日本ミュージアムマネジメント学会第15回大会(6月5・6日)にて、当財団の企画広報室田代室長が学会賞を受賞しました。受賞理由は博物館現場における評価活動の研究成果です。

②日本科学教育学会第34回年会における科学教育学会年会発表賞の受賞

国立科学博物館と共同して当財団企画広報室田代室長が昨年発表を行った「科学系博物館における科学リテラシー涵養を目指した学習プログラムの可能性と評価の試み」他の研究が評価され、科学教育学会年会発表賞を受賞しました。

(4) 事業評価と評価手法の記事掲載

①学・協会誌における記事掲載

- ・昨年度実施した教育プログラム評価の調査について、日本ミュージアムマネジメント学会会報No58(Vol.15 No.3)に、「科学館における教育プログラムの評価手法に関する調査研究」として掲載されました。
- ・平成24年度から実施される新学芸員制度について、日本博物館協会から協会が発行する「博物館研究」No510(Vol145 No.12)への投稿依頼があり、「科学館を含む科学系博物館から見た新しい学芸員養成課程に対する大学への要望」として原稿が掲載されました。
- ・「日本ミュージアムマネジメント学会研究紀要第14号」に論文掲載

「日本ミュージアムマネジメント学会研究紀要第 14 号」に、当財団が実施した調査研究のうち、「科学館における教育プログラムの効果測定手法に関する調査研究」（中村隆、小林成稔、鈴木まどか、田代英俊）、「ミュージアムリテラシー育成のための基礎的研究—博物館利用者の属性・意識と博物館活用効果とのクロス表分析の結果—」（田代英俊、中村隆、小山治）が、査読付き論文として掲載されました。

VII. 科学技術の研究開発とその促進事業

1. 科学館・博物館等に係る情報技術の研究開発

科学館、博物館などにおいては多様な情報の受発信機能の提供が求められ、高度な情報処理環境の構築と整備への期待が高まっています。そこで、科学館、博物館などにおける IT 活用として相応しい以下の研究・開発テーマを取り上げ、研究機関等と連携して実施しました。

(1) 他者とのコミュニケーションを支援する博物館遠隔鑑賞システムの研究開発

何らかの事情で博物館に来館することのできない人が、博物館に設置されているロボットを遠隔操作することによって、展示物を鑑賞することができるシステムの研究開発を筑波大学大学院システム情報工学研究科 葛岡研究室との共同研究として実施しました。

3月20日に科学技術館4階I室の「宇宙のひろば」にて、タンジブルナビゲーションインタフェースを用いた仮想空間演出と鑑賞支援用ロボット TalkTorque(トークトーク)を組み合わせた公開演示実験を実施する予定でしたが、東日本大震災による休館のため、中止となりました。平成23年度に再実験を行います。

(2) 科学館ネットワーク連携を目的とした情報流通システムの研究開発

YouTube 科学技術館チャンネルによる情報発信、テレビ会議システムの有効活用等各種の情報発信手段の調査・検討を行い、7月と8月に、青少年のための科学の祭典全国大会及び特別展「いきものから学ぶロボット展」について YouTube 科学技術館チャンネルへ動画掲載を行いました。

2. 学協会事務局活動

(1) 日本風力エネルギー協会の事務局業務

風力エネルギー利用促進のため「日本風力エネルギー協会」の事務局として、同協会の事業活動を推進しました。また、11月24日・25日に「第32回風力エネルギー利用シンポジウム」を開催し、依頼公演(11件)、国内研究者による学術発表(62件)が行われ、参加者は300名でした。

(2) エネルギー技術の調査研究

エネルギー変換懇話会は、平成22年3月末に解散したことに伴い、解散記念冊子の作成・発送を行いました。

VIII. 情報システムの受託開発と運用事業

コンピュータネットワークの普及等、情報化社会が急速に進展するに伴い、ソフトウェアに対する需要はますます高度化・複雑化・多様化しています。データベース技術、ネットワーク技術、解析・シミュレーション技術、インターネット技術などによってこれらのニーズに応えるべく、官公庁及び関連機関をはじめとして、民間企業や通信教育団体等から、情報システムの開発業務や運用業務を受託し、事業を実施しました。実施した主な事業は以下のとおりです。

1. 情報システムの受託開発

(1) データベース技術やネットワーク技術を応用した情報システムの受託開発

- ・ 環境省：平成 22 年度 PRTR データ管理・公表・開示システム等改良業務
- ・ (学) 産業能率大学：経理ホスティング処理対象の Windows 移行業務
- ・ (学) 産業能率大学：会計システム等運用保守業務
- ・ (独) 新エネルギー・産業技術総合開発機構：資産管理システム改修業務
- ・ (独) 新エネルギー・産業技術総合開発機構：成果フォローアップシステム関連業務
- ・ (独) 科学技術振興機構：地域の科学舎推進事業管理システム改造業務
- ・ (独) 科学技術振興機構：ストレージ容量拡張作業
- ・ (株) イセトール：東海信金システム開発業務
- ・ (株) イセトール：信金情報システム開発業務
- ・ (財) 電源地域振興センター：原子力発電施設等周辺地域企業立地支援給付金管理システム改修

(2) 設計製造、製品管理関連ソフトウェアの受託開発

- ・ (株) 電通国際情報サービス：PLM 技術支援業務
- ・ (株) 共同印刷：IC カード発行システム技術支援業務
- ・ (株) オリエンタルコンサルタンツ：平面予測データ生成プログラム作成業務

(3) マルチメディア・データベースシステム及びインターネット関連システムの受託開発

- ・ (独) 環境再生保全機構：「記録で見る大気汚染と裁判」検索システム作成業務
- ・ (独) 日本芸術文化振興会：インターネットチケット販売システム運用支援業務
- ・ (財) 全国科学博物館振興財団：国立科学博物館ネットショップ環境構築業務
- ・ 慶應義塾大学：健康危機管理従事者のリスク/クライシス・コミュニケーションスキル向上のための研修プログラムの開発と評価における e-learning システム作成業務

(4) 解析・シミュレーション等の技術による新エネルギー関連システムの受託開発

- ・ (財) 電力中央研究所：GT 高温部品保守最適化支援システムの機能検証業務
- ・ (株) 電力計算センター：アブダクションモデルのプリポスト作成
- ・ (株) 電力計算センター：変電設備の耐震性評価ツールの構築業務

- ・(株)電力計算センター：気象情報サーバおよび災害復旧支援システム(RAMP)の高度化業務
- ・(株)電力計算センター：雷データベースの分析業務
- ・(株)電力計算センター：地震被害想定システムの機能向上に関する研究支援業務
- ・(株)電力計算センター：分散形電源自律制御時の系統安定化効果と単独運転検出特性の解析計算
- ・(株)電力計算センター：需給信頼度(アデカシー)評価ツールの開発(改良版)業務
- ・(株)電力計算センター：配電設備の耐雷性能シミュレーション業務
- ・(株)電力計算センター：次数間高調波注入による単独運転検出方式特性解析計算業務
- ・(株)電力計算センター：PV大量導入時の火力機による調整力確保に関する確率論的評価の計算

(5)その他

- ・文部科学省：ヒューマンフロンティアサイエンスプログラム(HFSP)情報提供・広報活動業務
- ・環境省：ジフェニルアルシン酸等の健康影響に関する調査研究業務
- ・内閣府：北方領土に関する「メッセージフリップ企画」の受付等業務支援業務
- ・(独)中小企業基盤整備機構：e-中小企業ネットマガジン配信業務
- ・エネルギー広報企画舎：佐賀県委託事業・「科学実験教室」開催における付随業務(実験器材提供)業務
- ・東京電力(株)：教職員研修業務
- ・(株)シーシーエル：放射線教育用ビデオ制作業務
- ・(株)アートスタッフ：理科ねっとコンテンツDVD等発送業務
- ・(社)日本経営協会：通信教育支援システム保守業務
- ・(財)日本自転車普及協会：システム保守
- ・通信制高校向け 教務事務OAシステムの稼働維持

2. 情報システムの運用受託

官公庁及び関連機関、通信教育団体等を中心に、インターネットを活用した情報処理システムの運用業務を受託し、実施しました。実施した主なシステム運用業務は以下の通りです。

- ・(独)科学技術振興機構：SSH(Super Science Highschool)サーバのホスティング及び運用業務
- ・(社)電子情報技術産業協会：統計システムのデータ登録・運用業務
- ・中外製薬(株)、オムロン(株)：LMS(Learning Management System)の運用業務
- ・(職)日本技能教育開発センター：版下Web配信システム運用業務
- ・通信教育Web受講申込システムの運用業務
- ・通信教育成績報告支援サービス業務
- ・通信教育支援システムの運用業務

IX. 科学技術館施設の利用促進事業

科学技術館は公共性の高い施設のため、入館者の安全確保、施設整備等の対策強化に努めております。
また、科学技術館諸施設の有効利用を図るため、催事場・サイエンスホール等の利用促進に努めております。

1. 建物及び建築設備の維持管理

入館者が安全かつ快適な環境の中で見学・利用できるよう、建物の安全・衛生等の環境整備に努めております。今期は下記の工事を実施しました。

(1) 空調機等の薬品洗浄工事の実施

- ・展示棟用 (E 棟 5 階、F 棟 5 階)
- ・地下機械室内のターボ冷凍機 (No. 2 号機)

(2) 空調機(部品交換)整備工事の実施

- ・クーリングタワーモーター取替え

(3) 電気設備整備工事の実施

- ・特高遮断器取替修繕
- ・操作用蓄電池設備交換
- ・自家発始動用蓄電池設備交換
- ・遮断器修理 (3KV 蓄電器 No. 2 用)

(4) 給排水衛生設備機器の改修実施

- ・事務棟 5 階男子トイレ大便器を改修

(5) 雨漏り対策の実施

- ・1 階催事場 (2 号館、10 号館) 漏水受け設備の設置
- ・展示棟 I 棟屋上防水改修

(6) 機械設備不具合箇所(部品交換等)整備の実施

- ・風呂場ガス給湯器取替
- ・1 階催事場 G 棟出入口シャッター安全装置改修
- ・展示棟 E 棟 2 階空調機整備
- ・展示棟 I 棟 5 階ワークス空調機整備

(7) 消防・防災設備不具合箇所(部品交換等)整備の実施

- ・連結送水管補修
- ・消火栓と連結送水口を更新

(8) 防火シャッター取付工事実施

- ・煙感知器連動式の防火シャッターを 9 号館側に新規に設置

(9) 事務棟 6 階貸し会議室の改装工事実施

- ・第3会議室の壁、天上、サッシの仕上げを改装

(10)空調機の増設及び更新工事実施

- ・事務棟6階第1、第3会議室に床置き式エアコンを新規に増設
- ・1階催事場(1号、11号館)の空調機を更新
- ・E棟5階空調機を更新

2. 館施設の活用

催事場、サイエンスホール、会議室を、科学技術の普及・交流等の場として提供するとともに、各種団体の利用促進に努め、財政基盤の安定化を図ります。あわせて、レストラン、ミュージアムショップ、スタジオ等関連する施設の運営管理を行いました。

